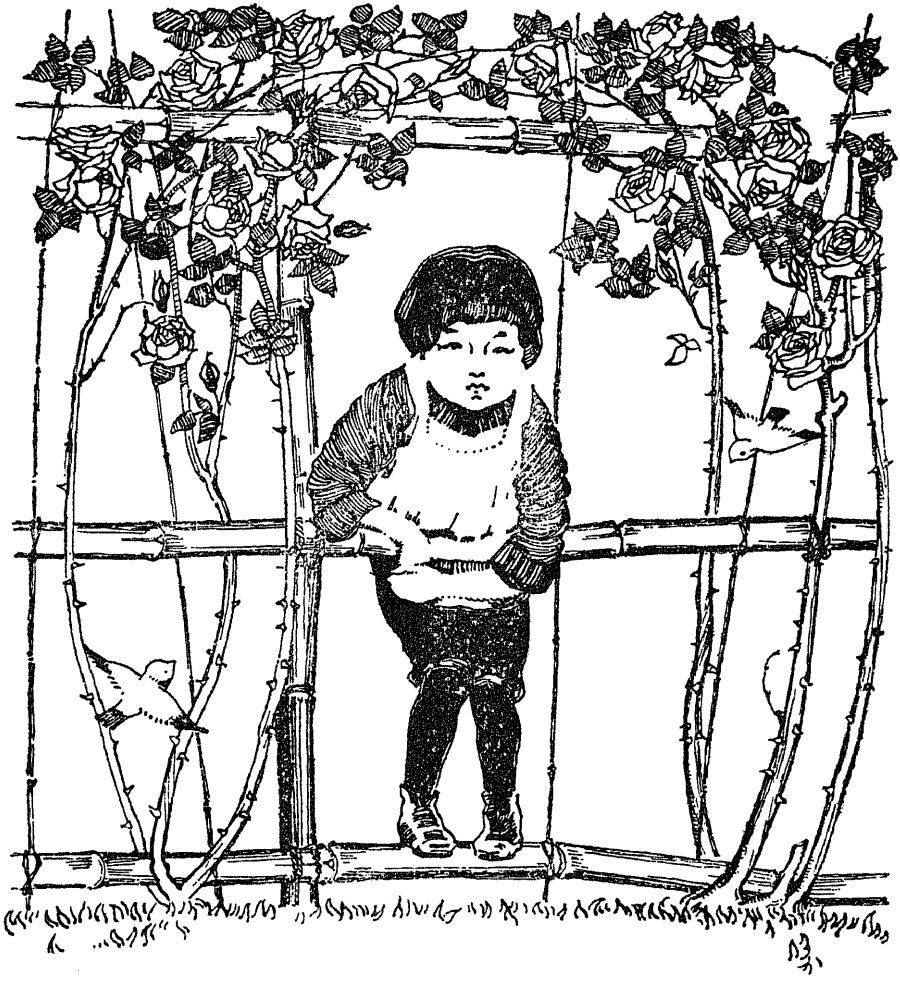
幼兒の教育

第三十二卷　四月號　第四號



東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會

〔十三版〕

幼稚園の理論及實際

奈良女高師教授
附屬幼稚園
森川正雄先生著

▲菊判三五〇頁
▲箱入裝幀優美
▲定價金三圓
▲送料十六錢

▲唯一の體系的良書　幼稚園の理論及實際を平易に且體系的に說かれたる唯一無二而も最良の參考書である。
▲保育史保育學原論　內容は古今の理論、內外の實際等保育史と保育實際とを網羅し悉く之を解決指示さる。
▲保姆檢定の參考書　本書は奈良女高師本科及保姆科の教科書にて又福岡縣初め各府縣の保姆檢定指定參考書。

五版
奈良女高師教授 森川正雄先生著
保姆用 教育學
價二・八〇 送〇・一六

五版
奈良女高師教授 附屬幼稚園主事 森川正雄先生著
幼稚園託兒所 育兒法
價二・〇〇 送〇・一六

五版
奈良女高師教授 附屬幼稚園主事 森川正雄先生著
幼稚園の經營
價二・八〇 送〇・一六

五版
大阪家なき幼稚園長 大阪毎日新聞社顧問 橋詰良一先生著
家なき幼稚園の主張と實際
價二・五〇 送〇・一六

八版
東洋大學教授 關寬之先生著
高等教育 兒童心理學
價二・〇〇 送〇・一六

最新刊
東京女高師教授 附屬小主事 同 附屬幼稚園前主事 堀七藏先生著
我が兒の科學教育
價二・五〇 送〇・一六

三版
京大教授 小西重直先生序、青木文子女史抄譯
母より先生へ
價二・五〇 送〇・一四

四版
奈良女高師訓導 池田こぎく先生著
私の教育記錄
價二・八〇 送〇・一六

卅六版
奈良女高師教諭兼訓導 幾尾純先生著
私の唱歌教授
價二・五〇 送〇・一六

八版
東京女高師教授 文學博士 下田次郎先生著
現代教訓實話集 第一輯 第二輯
各價二・〇〇 送〇・一〇

發兌　東京 東大阪　東洋圖書株式合資會社

東京市神田區表神保町一〇番地・振替東京一〇三七番
大阪市南區寺內安堂寺町一丁目二八番地・振替大阪三九五五六番

フレーベル誕生百五十年記念講演會

本年はフレーベル誕生百五十年に當りますので、記念講演會を以て、皆さんと御いつしよに祝意を表したいと思ひます。多數諸君の御來會を切望します。

時日　四月二十三日（土）午後一時半

場所　東京女子高等師範學校附屬幼稚園

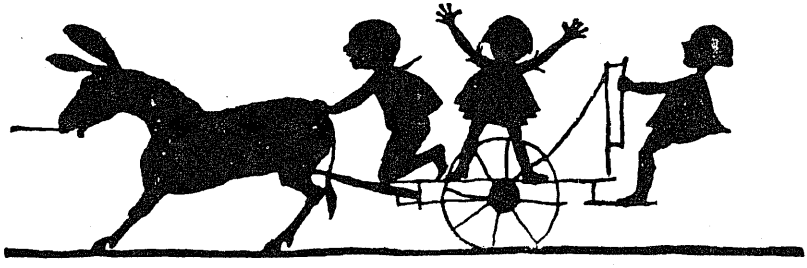
講演

フレーベルの生れた家　倉橋惣三君

フレーベルに就て　玉成保姆養成所長　ソファヤ・アラベラ・アルウキン君

昭和七年四月

日本幼稚園協會



日本幼稚園協會編輯　幼兒の敎育

會長　東京女子高等師範學校長　吉岡郷甫

主幹　東京女子高等師範學校教授　附屬幼稚園主事　倉橋惣三

日本幼稚園協會規則

第一條　本會ハ幼兒敎育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條　會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒敎育ニ篤志ナルモノトス

第四條　會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ醵出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條　令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條　幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラルヽモノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條　本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條　本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒敎育ニ關スル研究及ヒ調査

一、幼兒敎育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒敎育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名　會務ヲ總理ス

主幹　一名　會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事　若干名　會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員　若干名　重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條　會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條　主幹　幹事　評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推擧スルモノトス

第十二條　本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルヽコトアルヘシ

第十三條　本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

第三十二卷　幼兒の教育　第四號

——（目　次）——

口絵　フレーベル肖像
キンダーガルテン（巻頭言）……倉橋惣三…（一）
フレーベル誕生百五十年……倉橋惣三…（二）
企圖（フレーベル）……フ……（三）
新入園兒を迎へて……堀七藏…（一五）
幼兒期に於ける歌謠的律動的生活……山内俊次…（二〇）
コドモカルタから幼兒唱歌……葛原滋…（二九）
輝ける母……古川茂…（三七）
新任保姆の感想を聞く……和田實…（四二）
人形をめぐる人々……水谷年惠子…（四九）
童話「毬子さんこヒャシンス」……高島巖…（五四）
切抜折紙の動物……山形寛…（五八）
保育そのときぐ……倉橋惣三…（六三）
花壇並に花壇用草花年中行事—四月……富本光郎…（六四）
園藝暦—四月—……大岩金…（七〇）
遊戯・じごうしや・まりなげ……土川五郎…（七三）

東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三先生
內務省囑託 緋田工先生 共著

農繁託兒所の經營

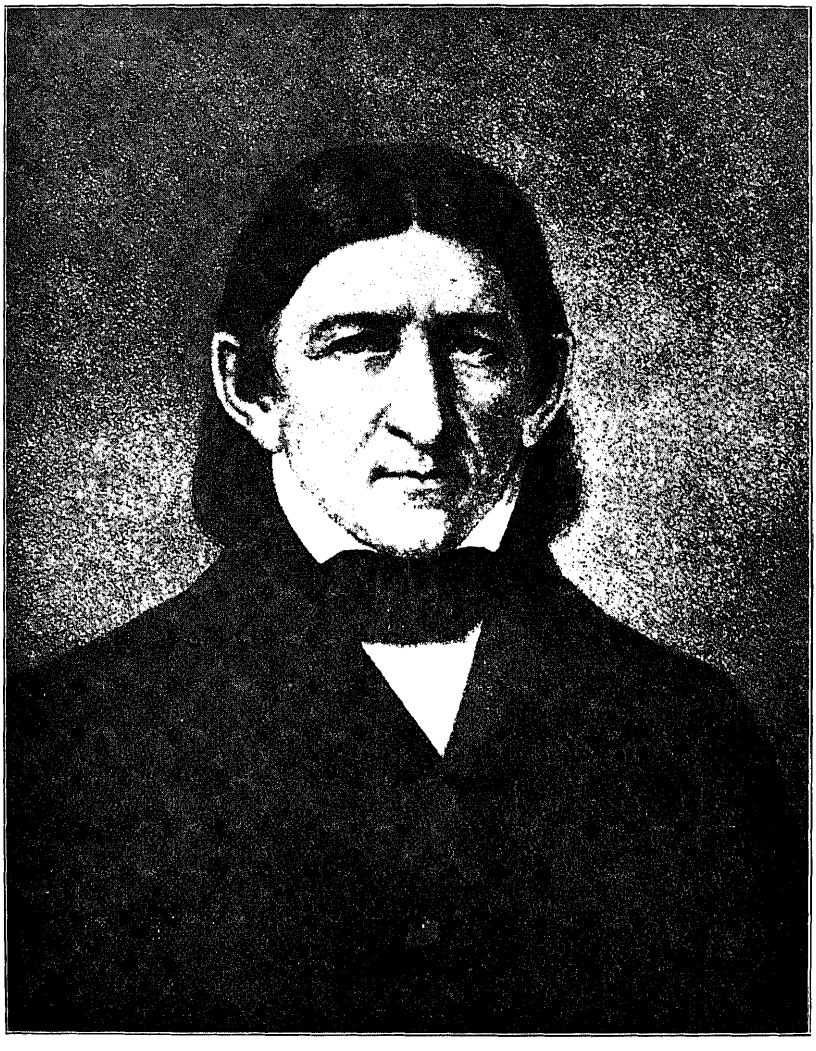
定價 金二十錢 郵稅二錢

保育
トツレフンパ
—1—

農繁託兒所
經營
絕好指針

本書は農繁託兒所の經營及びその實際に就いて、兩先生が簡明的確に而かも極めて興味ある卑近の事例を擧げて各々其の意義、特質竝に經營の實際的指導等に亙つて蘊蓄を披瀝し餘す所がない。蓋し宇宙の森羅萬象は悉く之を捉つて、以て直に幼兒に好觀察的保育教材たり得る事實の如き、農繁託兒所の本質と相俟つて、實際的保育及び經營に關聯する所頗る大。之を闡明し、手を舒べて指導するものは實に本書であります。敢て一讀をすゝめます。

發行所
東京・神田・一ツ橋通
教育會館內
株式會社 フレーベル館
電話九段(33)(御註文專用)三八二七番



Friedrich Froebel.

幼兒の教育

昭和七年四月

キンダーガルテン

『ミツテンドルフと私とが、或る日、フレーベルといつしよに、ブランケンブルヒへと、スタイゲルの山道を越へてゐた時のことであつた。フレーベルは、今度の新らしい仕事に適當な名稱はないものかなあとばかり言ひつゞけてゐた。やがて、ブランケンブルヒが眼の下に見えて來た。彼れは考へ込みながら歩いてゐたが、突然、まるで其の場にしばりつけられたやうに立ち止つた。その眼は異樣に、殆んどぎらつく程に輝いた。そして、四方の山々がこだまするやうな大きな聲で叫んだものだ。――しめた。いゝ名が見つかつたぞ。新計畫の名稱はキンダーガルテンに限る！』

これは、バロップの書いてゐる手記の一節であるが、その時のフレーベルの擧げた叫び聲が、苦心の新語が、今も私達の胸にこだましてゐる。幼稚園。幼稚園。幼稚園。

（倉橋惣三）

フレーベル誕生百五十年

倉橋惣三

今年今月二十一日はフレーベルの百五十回誕生日に當る。年々の誕生日に於て、否、平素常に我等の忘れないフレーベルであるけれども、今年は特に丁重に其の肖像を飾つて、思ひを深くして此の大教育者を偲びたい。

今私の目の前に――私はブランケンブルヒのフレーベル記念館で求めて來たウンガルによるワイマール版のフレーベル像を平生書齋にかゝげてゐる――フレーベルは極めて端正な容姿を以て、眼を凝らして一方を視つめてゐる。考へてゐるフレーベルである。理想凝望のフレーベルである。そのフレーベルの一面が、兩眼の底深い輝きに閃き出でゝゐる。

實にフレーベルは瞑想家であつた。その本來の詩人的素質は當時の哲學思潮に伴ひ生長して、神祕に近き幽玄さにまで奥深められた。

しかも　我等のフレーベルは、どこまでも教育者フレーベルである。幼兒等との嬉戯の裡に、その思索と理論とを忘るゝのみならず、自己自らを沒入沒我せしめたる「子どもの友」フレーベルである。彼れの理論は、より進歩せる教育論から批判せらるゝこともあらう。又、彼れの思想は、より嚴重なる精密思索から指摘せらるゝ點もあらう。しかし、幼兒に對する彼れの性格的な理解と愛着とは、教育的天才の極致として、永久に其の貴さを失はない。今より後更に百五十年、更に々々三百年、眞實絶對の價値と力とを、人類の教育に與ふるに於て、永遠に變ることがないであらう。

眉間の肖像は、いつの間にか、その堅く締めてゐた唇をほどいていふ。

來れよ。子ども等と俱に遊ばん。

企圖

（フレーベル）

此の文章はフレーベルが幼稚園に關する企圖に就て、其の思想を述べた、或る新年初頭の瞑想である。誕生百五十年の祝意の一端として特に譯し掲げて、讀者諸君と共に熟讀玩味したい。譯は文學士菊池武繼氏を煩はした。玆に其の勞を謝す。（編輯者）

除夜の鐘の響を耳にする時、人は刮目して來るべき年を待ちながらも、我が過ぎ來し方の果敢なさ、此の一年の餘りにも、遽しかりしを漫ろに追懷是を久しうするものゝ如くである。夫れは入り日の殘光の樣に、過去一年間に起つた盡きせぬ追憶の數々が、今更の如く鮮かに甦つて人の目を見張らせる爲である。即ち人は逝く年を惜しむ名殘りと、來るべき年への期待とに浸りながら、萬感交々到つて盡きざる有樣で除夜の鐘の響に聞き惚れるのである。人は今將さに盡きなんとする此の一年間に、遂行し或は等閑に附し、努め或は失ひ、成功し或は失敗し、彼に利益となり或は妨碍となつた一切の事どもをまさ〴〵と想起する。人は達成された事と、彼の努力も希望も空しく失敗に終つた事とを仔細に吟味する。人は成就した事の効果と、等閑に附せられて居た事の結果とに就て穿鑿する。人は全く申し分なき意氣込を以て成就されたる場合の形式を篤と比較して、殆ど掌中に握りしかに見えながらも、みす〳〵九仞の功を一簣に缺ける多くの場合の原因を追求する。過去一年間を通じて、逸早く行はれた努力と熱望とが妥當視さるゝ限り、其の努力なり熱望なりは今やより判然と人を發奮せしめる。そして來るべき年を垣間見ながら、人は新たなる活動と實行との新芽を見出す樣に、人の胸も心も新たなる努力と新たなる希望と新たなる活氣とに湧き返つて居る。人は是

等の努力なり希望なり活氣なりが、最も確實に然も最も迅速に達成され得べき方法手段に關して探求する。そして凡ゆる方面から其の問題を考察した揚句、一つの最後的思想に到達するが、是こそは一切の眞隨をなし、又人生が究極に於て與ふる處の所謂、人生の目的に對する正確なる認識と處置との根柢をなすものである。換言すれば此の思想こそは、生活の爲の人間教育が與へた體驗の賜物であつて、この思想に基いて、家庭教育、第一教育、人生の教育といふものが人に與へられるのである。一度、人の奥底に宿る心情とその個人的生活とを瞥見し、又教育が彼に何物を與へたかを瞥見したならば、一切は、自から無言にして然かも雄辯なる感情の中に氷解し、顯著ではないが然も明白なる思想の中に氷解するのである。寔に人の子に對して、この地上に於ける最初の產聲からして既にその存在の正しき認識と　適切なる哺育と取扱ひ、即ちその天賦の才をば眞に遺憾なきまでに各方面にその驥足を伸ばさしむるやうな教育と――要するに、所謂人生なるものゝ正しき認識と處置とこそは、望ましきものの限りである。

然して、幼兒はその個性の底ひに根を張れる物を熱望し、是等の要求と連關して憧憬する物をば獲得せんものと、自發的に努力の一歩を踏み出すことであらうが、此處に忘れてならないのは、彼は一箇の人間として、自分は孤立しても居なければ、亦孤立して居るべきでもないといふ一事である。換言すれば一個の人間として、彼は啻に家族、社會、國家並に現存する全人種の一員たるに留らず、尙ほ、ありと凡ゆる人類の一員であるといふ一事に逢着して、その事實を承認するに到るのである。即ち人は、一切の人々と共に一箇の有機的統一體であり、そして夫れを形成する。又、一切の人々は、彼と共に有機的統一體を形成し、しかも有機的統一體である。故に、有機的統一體の一員として、有機的統一體とのより自由にして、より精神的なる結合を保つて、初めて人は一個の人間として、獲得せんとして精進する處の物をば獲得するだらうし、又獲得することも可能であるだらう。單獨では、人は殆ど何事をもなし

得ないので、仍で結合しやうといふ考が彼の心を滿たし、協力一致の精神が彼の魂に漲るに到るのである。實際、幾人かゞ、又は多くの人達が――さうだ全體の、或は尠くとも自分に最も近い人達でもが、各個人に對する場合にも、總ての人々に對する場合にも自分と一心同體になつて呉れるなら什麼に嬉しい事だらうか。今日も今日とて、逝く年を惜しみ來る年を待ち佗ぶる折柄、一切を抱擁し、一切を包含する思想並に感情として、自分と共に考へ共に感ずる凡ゆる人々に對する次の樣な訴への聲が人の胸底から迸り出る。

「いざ來よ友よ、幼な兒と共に生き長らへん。」

一切を結合し、一切を含有するこの訴へは、除夜の鐘の響を聞くに際しての吾人の總べての感情と思想とを言ひ得て餘蘊がない。吾人は實際、それが多くの――又、思慮綿密なる生活を送るならば其の總べての人のそこばくの鮮明な感情と、雄辯なる或は無言の思想である事を豫想し、希望し、そして信ずるものである。

故に逝く年の大晦日に於てすらも「いざ來よ、友よ、幼な兒と共に生き長らへん」とする決心と、この決心の具體化とは、多くの人々が精神的結合と共同の精進とを痛感せる慾望を示すものである。隨つて、來るべき年は、其の第一日より否その最初の時間よりして、斯くの如く人類にとつて最も重大なる機會となり得るものであるが、その機會とは、即ち全人類の幸福のみならず、亦個人の幸福の爲にも結合すべき機會の謂である。斯くの如き協力一致の精進は、來るべき年をば眞實の意味に於ける「新しき一年とするであらう。

然しながら「いざ來よ友よ、幼な兒と共に生き長らへん。」といふ觀念が、逝く年と來る年との年の瀬に於てのみならず、如何なる時に於ても多くの人々の結合的にして基礎的なる不滅の思想であり、又その思想が人の胸底に一致と同情とを見出すのみならず人類の生活と行爲との中に確實に把握されてゐるといふ豫想を吾人の心中に目覺めしめ、

信念を懷かしめ、そして確心を與ふるものは、抑々何であらうか。

幼兒時代を經過せざりし人がない以上、人がその修養時代に於て、此の不滅の思想を確保する事と確保せざる事とに依つて、一身上に如何なる結果の相違を受けたかを認めない人は一人もないのである。それどころか、總べての人々は此の思想を終始一貫墨守する事に依つて、如何なる影響を受けたかを痛感して、實際屢々他人にも述懷してゐる程である。若し吾人が暫時なりとも此の思想の確固たる墨守に就て默思するならば、其の思想を實踐窮行する事により、其の思想が吾人の中に呼び起す我等の幼年時代の追憶により、其の思想が我々自身の生命に與ふる補足と完成と、により、又其の思想が我々自身の日進月歩の改善の爲になされ又は與ふる要求と機會とに依つて、初めて吾人は我々自身の最上の生活を送るものである一事を吾人は深く體得し、しかも判然と認識しなければならない。

此の叫びは、我々の脣を突いて迸り出づるものである。即ち此の叫びは、人の胸底に同情と一致とを見出さん事を求めて止まないのである。換言すれば一切を抱擁する眞情即ち慧眼なる洞察力は、凡ゆる物に於て、無言の感情として、沈默の思想として、將た又世界の思想として、此の叫びを認識するのである。

人の眞情は、此の叫びが行爲の中に闡明し、又人が單なる一部分に過ぎず、しかも缺くべからざる一員である處の有機的統一體中の一事實として此の叫びが闡明するのを見逃がしはしない。凡ゆる星群を從へつゝ太陽は、地球に對し——その凡ゆる生物と其の子孫とを抱擁する地球に對して、此の叫びを投げかけてゐるではないか。自然現象も、地球も、水も、空氣も、光線も、將た又熱も地球の凡ゆる形式に就て、此の叫びを交互に投げかけて居るではないか。一木一草の凡ゆる部分は、その後繼者として默々裡に芽生へつゝある種子に就て、此の叫びを交互に投げかけて居るではないか。然り、凡ゆる森羅萬象に於て、苟も生命と活力との漲るところ、全般と總體に於て完全に自己の存在を

明かにせんが爲に、(例へば、一粒の栴檀の種子が一本の栴檀全體の性能を具備する樣に、)單一體並に有機的統一體を具備せんものと努力するところ――到るところに、吾人は「いざや來よ友よ、幼な兒と共に生き長らへん」といふ觀念が全生命に適應さるべき金言として、闡明してゐるのを見るのである。

仍でより高き意識を目指して向上すべく運命づけられてゐる自覺せる人間は、相互の向上と認識との爲に、亦共通の職務とその達成との爲にも、自然が既に暗默裡に生命の一般法則として、又不可缺の要求として闡明せるところの物を聲高らかに闡明すべきではなからうか。

故に此の訴へは、此の訴へに同情せんとする人々のみならず、亦行爲に於ても夫れに同意し呼應せんとする人々の耳朶にも容れられん事を望んで止まない。何となれば人は天分に於て他の凡ゆる生物に絶したる所謂萬物の靈長であり、隨つて幼兒は又草木の萠芽以上に卓越して居るではないか。栴檀の若芽が、夫れ自身の內に完全なる栴檀の性能を具ふるが如く、人間は夫れ自身の內に全人類の性能を具ふるものである。故に人類は一人々々の幼兒の內から新しく生れ出づるものではあるまいか。然るに誰が此の性能を突きとめて居るだらうか。誰が夫れを測り得て居るだらうか。夫れは神の御旨に委ねられてあるのではなからうか。

依是觀是、「いざ來よ友よ、幼な兒と共に生き長らへん」といふ訴へは、逝く年と來る年との分岐點に於て、中心點となつて一切を連結する眞生命の呼び聲である。隨つて此の訴へは凡ゆる生命と正しく融合するものであつて、換言すれば、人間と人生とは相互に、そして亦人類と結合し、又生物は森羅萬象と結合するのみならず、凡ゆる生命の源泉とも、亦「いざ人の姿を我と我が像に擬らへて創らなん」と宣ふた造物主なる神とも結合するものである。

故に「いざ來よ友よ、幼な兒と共に生き長らへん。」である。

實踐窮行

凡そ生命の完全なる表現に對する眞の決心と純粹の努力との存する處、そこに直ちに實踐窮行あるを見ること、宛ら鮮明なる獨立の結合的思想が直ちに行動に訴へて於て意思表示せん事を求むる場合と一般である。「いざ來よ友よ、幼な兒と共に生き長らへん」といふ人間性の根本的にして不滅なる思想は、それが行動に於て意思表示さるゝ時、家族や國民や又人類の一員としての人即ち幼兒の裡に活動、穿鑿、並びに修養に對する衝動を涵養する事に依つて、初めて家庭生活の涵養に對し、そして人生と國民と人類とに於ける陶冶に對する「制度」となるのである。換言すれば此の思想は、人類の獨學と獨修と自己修養との爲の「制度」たるに留らず、亦同一の一貫せる遊戯と獨創的自己活動と自發的獨學との普遍的にして、隨つて個性的なる訓練の爲の「制度」であり、就中、幼兒の哺育を目的とする家族と學校とに對する「制度」であり、又自己の修養に於て完璧と結合とを志して精進する各個人に對すると同樣に、小學校や中學校に對する「制度」でもあるのであつて、要するに此の互惠的要望の精神が、獨逸、瑞西、乃至北米に於て多くの家庭を糾合せしめたる處の物を實行しやうといふのが其の目的である。

さて此の論文は、先づ第一に此の制度を說明し紹介するのが主眼であるから、有機的統一體の「根柢」の紹介から始めやう。抑々各個人の未來に亘る全生涯の進展と形成とは、其の存在の出發點に含まれてゐる。即ち各個人の生活の遺憾なき實現と不滅の機能とは、全く出發點の理解と涵養と、認識と實行とに基いて居るのである。

人の幼年時代は、宛ら一木一草の花にも譬ふべきもので、夫れ等の花の一木一草に於ける關係と、幼兒の人類に於ける關係とは全く同じで、人生の若き蕾であり、新しき花なのである。剩へ幼兒は新しき人生の不斷の再現を促し約

束し、闡明するものである。

例へば樹の蕾が、蔓や枝や幹と連絡し根や梢と連絡し、更に此の二つの部分を通じて天地と連絡して、其の存在の進化と繁榮との爲に全宇宙に對して結合的提携と互惠的交渉とを保つが如く、人も亦自然と人類と、そして凡ゆる靈的努力並に影響、即ち宇宙森羅萬象の生命と　全般的に進化する生活交渉を保つて居るのである。

完成を目標とする人間の多幸なる進化と、其の天命の達成と努力に依る人生の純粹なる歡喜並に眞の平和の獲得とは偏へに人が幼時に於てすらも、對外關係のみならず自分の性能に關する正確なる認識に基くものであり、又、此の性能と是等の對外關係とに對應する適當なる處置に基いて居るのである。

然るに人は被創造者である。しかも夫れ自體同時に一部分でもあり、そして一つの統一體でもある。(故に、人は「部分性統一體」——Griedganzes——と謂つてもよい)何となれば、一面に於て創造物としての人は、宇宙森羅萬象の一部分であるが、亦他面に於て人は創造物であるが故に彼の創造者即ち神の性能——即ち生氣横溢し存在を高唱する不滅の而も創造的性能が其の裡に潜在して、夫れ自體完全なる單一體であるからである。

人は斯くの如く夫れ自體生命であつて而も子孫にも生命を與ふるものであるから、此の創造的にして根本的なる性能は、創造的組織に對する人の衝動の裡に實在してゐるのである。此の根本的性能は、幼兒の內にすらも實在して居るものであつて、觀察から分析へ、そして再び結合を志す本能が是であり、換言すれば組織的にして創造的の活動に對する本能が是である。實際幼兒に於ける此の本能の涵養は、やがて人の生命を明白に表現せしめ、同時に其の生命の要求を完全に充足せしむるものである。

人は幼時に於て、父親親と母親とに依つて鍛練され感化さるるものゝ如くである。

父と母と、そして子と相俟つて、三位一體の有機的統一體、即ち家族を形成する。幼兒は其の誕生に依つて、家族並に家族生活を創造する。そして一方地上に於ける人の不斷の出現は、家族と不可分の因果關係を有する。即ち家族と子とは互惠的に條件づけるものであり、其の何れを缺いても存在するを得ないものであつて、是等は謂はゞ夫れ等自身に於て不可分の單一體を形成して居るのである。

然るに前述の如く、人は夫れ自體一つの有機的統一體でもあると同時に、亦家族といふ有機統一體の不可缺の一員でもあるから、人は宇宙への（こゝでは地球上に於ける謂）最初の誕生の場合と同じく、家族中への最初の誕生の場合に於ても所謂「部分的統一體」として改めて登場するものである。

人は、家族の一員としてのみ初めて相關的で、正銘の完全なる人となる事が可能であつて、換言すれば一箇の有機的統一體としての家族こそ、一箇の眞實完全なる人らしい存在であり、一箇の有機的統一體としての家族生活こそ、一箇の眞實完全なる人らしい生活なのである。

さて、家族が人の生產並に其の子孫の媒介者の根本的條件である如く、亦人は幼時に於て、家族と連繫し影響さるゝ時のみ創造的自動力に對する其の本能の進展を十二分に遂げる事が出來るものであつて、その時こそ人は、此の本能の翼を思ふさま伸して生活する事が出來るのである。即ち凡ゆる純粹の人間的教育も眞實の人間的鍛練も、それから斯ういふ我々の努力も、悉く家族に於ける此の活動的本能の漸層的涵養と、此の本能の充足に對する幼兒の細心なる啓發と、此の本能に從つて活動すべき幼兒の適應性と密接な連繫があるのである。

實に人をして地上に於ける誕生の第一日より、一箇の完全なる人間として、夫れ自身一箇の有機的統一體として、又有機的生活體と協調提携しつゝ、自由にしかも自發的に自己を開發し教育する事を可能ならしむる事に、吾人の努

力の目的も在るのであつて――換言すれば、人をして自から鍛練し教育し、斯くて凡ゆる生物の確固たる一員なる事を自から認識し、夫れ自體自由に然かも自發的に自己の存在を明かにする事、即ち自由に然も自發的に生活する事を可能ならしむるのが、吾人の努力の目的なのである。

更に、愛即ち兩親と子の愛、換言すれば所謂肉親の愛の最初にして根本的なる形態は、今や家族生活の裡に發見されるが、實に家族こそは愛が個人的になる溫室である。幼兒の創造的活動力に對する衝動を涵養し啓發する手段の中にこそ、又此の衝動を啓發する手段を補足する處にこそ兩親の愛は其の全幅の姿を表現するものである。此の衝動の涵養はやがて、兄弟姉妹の愛、即ち同胞の愛を呼び起して是を强化する。斯くて此の創造的活動力に對する衝動の涵養は、親子の眞實の愛、即ち純粹の肉親の愛の廣義に於ける現れであつて、是れはやがて至上の愛を啓示すると同時に、愛の性能を十二分に充足せしむるものである。

人を一箇の被創造者と考ふる一面、其の全生涯を通じてのみならず幼年時代に於てすら、一箇の創造者として彼を見做し待遇するのは缺くべからざる必要事であり、そして自から創造しつゝある間にも、既に幼時より創造主なる神と創造と、そして被創造者との關係を發見し、認識し、斯くて彼の日々に增大する收容能力に應じて、此の三位一體の因果關係を發見し認識する樣に彼を訓練し涵養するのは缺くべからざる必要事である。斯くの如く訓練された曉に於て、人は一箇の地上の生物としての彼の天職と天命の何たるかを理解し認識して是を遂行する事が出來るであらう。即ち創造と創造物と隨つて人との裡に神の御姿を認め、自分自身並に人類の裡に自己の姿を認め、斯くて他人の裡に各自の個性を、各自の個生の裡に他人を區別するを知つて、此の認識を進めて夫れ表現し又は表現せしめ、夫れを會得し又は會得せしむる事が可能になるだらう。

然しながら、物を觀察し認識しそして會得する爲には、道知るべの光明を必要とし又前提としなければならない。故に人の創造力と觀察力とに對する衝動の十分なる涵養に依つて、認識は人間の裡にそして其の周圍に光明を現像する。斯くて、(他人の光明となり又は他人の光明の中を歩むべき)人の天命と天職とは、創造的活動力への衝動の涵養に依つて前述の天命を全うすべき可能性と共に、吾人に啓示されたのである。

斯くて吾人は、人が此の地上に初めて出現し、初めて家族に加入したる時より、既に夫れ自身が尚單一體であるといふ三次元の方法(即ち三位一體の方法)に依つて、即ち生と愛と光りとに依つて——換言すれば觀察と認識と會得と記憶とに依つて、人は行動するのを知つたが、亦同樣に人の創造的活動力の衝動の細心なる涵養は、人間の此の三位一體の生活と完全に關聯し、そして其の生活を滿足せしむるものであるのを知る。然るに人が據つて以て行動する所謂三位一體の方法なるものは、他に比類を見ざる程人間にとつて重大なるものである。何となれば、神は生命としては大自然の裡に、即ち宇宙森羅萬象の裡に、又愛としては人類の裡に(そして愛の裡に)將た又光明としては智力の裡に(即ち靈魂の裡に)夫れ夫れ身窮からの御姿を示顯し給ふからである。故に神は生であり、愛であり、そして光りである。即ち斯くの如き三位一體の方法に於て、神は造物主としての御姿を現し、又創造物の裡に御姿を現し給ふのである。依是觀是、人の子の實體と性能とは、生と愛と光りとの裡にその實在を確信され、又生と愛と光りとして、是れまで實現したる處と現に實現しつゝある處とを表現される。

即ち生に依つて幼兒は最も密接に大自然、即ち森羅萬象の一切と連絡し、愛に依つて幼兒は最も密接に人類と握手し、最後に光りに依つて幼兒は智、即ち神と共に在るものゝ如くである。

故に被創造者としての人は、地上に生を享けたる初期即ち幼時に於て、所謂三位一體の子として其の關係する凡ゆ

る方面に於て觀察され、考慮され、そして哺育さるべきである。或は三つの別箇にして離るべからざる關係に於ける幼兒として、即ち大自然の子として、人の子として、そして神の子として、換言すれば第一に其の平俗的、地上的にして自然的なる條件と關係、即ち其の生活に應じて、第二に彼の人間としての存在、即ち彼の愛に應じて、最後に彼の生得の靈的性能、豫感と感受性、記憶、認識、意志、學問と智識とに應じて、人は其の關係する凡ゆる方面に於て觀察され、考慮され、そして哺育さるべきである。其の第一の關係に於て（大自然の子として）人は束縛され拘束されて、無自覺で、衝動に盲從し、多感にして只管唯物的に生活する生物として考へらるべきである。最後の關係に於ては神の子として、即ち單に自覺に適應し、又自覺すべく約束されてゐるのみならず、亦既に自己の性能を自覺し豫想し、隨つて我と我が意志に依り、一箇の細心にして鋭敏、直覺的にして靈感的、然かも博識にして賢明なる生物として、高尚にして純粹なる生命の統一を招來する一箇の自由なる生物として、人は考へらるべきである。そして中間の關係に於ては（人類の子として）羈絆より自由へ、單獨より統一と自覺へ、分立より結合と平和へ、只管に精進する生物として、換言すれば上述の努力に日夜孜々として倦むを知らざる生氣横溢せる生物として、そして統一の實現を待望しつゝ歡喜に輝く生物として考へらるべきである。

依つて以て人が實在する凡ゆる條件と關係とを判然と自覺する事と、是等の條件と關係との要求を日夜忠實に遵奉する事とは、（一箇の存在としての）人をして初めて自覺に於ても行動に於ても人とならしめるのであつて、換言すれば、人をして己れの義務の細心にして然も愉快なる實行を遂げしむる事に依り、又人としての義務の總額を遲滯なく清算しむる事に依つて、一箇の完全無缺の人間たらしむるのである。

若し人の子が、其の創造的活動力の衝動の完全なる涵養に依り、其の性能の三位一體に於て、彼の生命の統一に於

て、即ち彼の環境と關係との凡ゆる方面に於て、かく理解されそして適切に取り扱はれさへしたならば、又若し彼が其の人と就り、天分、期待に應じて、一箇の地上の生物として理解されそして適切に取り扱はれさへしたならば、最後に若し彼が同樣の三位一體に於ける彼の周圍の外界を認識し、隨つて同樣の三位一體に於ける神の御姿を認識し、又、其の統一に於て、各自の個性に於て、そして凡ゆる統一の綜合體に於て、自己を取り捲く外界を認識しさへしたならば、幼兒は實在の自己として、即ち多數の結合せる（しかし夫れ自身に於ては單一體である）有機的統一體として、又同時に大なる有機的統一體――即ち凡ゆる生物の一員として、自からを啓發する事が出來る。換言すれば自己の天命に應じて自からを啓發し、そして自己の天職に忠實なるを得るのである。斯くて幼兒は、自己並に自己の周圍より、一箇の生命の完璧と統一とを形成し、そして彼の創造的生活に依つて、神と大自然と人類とが、統一と單一とに於て夫れ夫れの姿を現はすであらう。そして全般的結合と、純粹の平和と、生命の眞の歡喜との裡に、亦夫れを目的として神と大自然と人類とが幼兒に夫れ夫れの姿を示す如く、幼兒も亦自己の存在を彼等に明かにするだらう。

故に此の「制度」の目的は、人の性能並に人の組織と活動とに對する本能に基き、そして此の衝動の涵養に伴つて、一箇の不滅の有機體となる事であつて、謂はゞ、人が大自然と生命とに對する相對關係に基いて、職業選擇の手段、隨つて訓練と教育の手段を供給する一つの有機體となる事である。こゝに謂ふ手段とは、夫れが幼兒の精神的覺醒と、四肢並に感覺の使用との第一階梯より、そして其の體力並に智力の生長に伴ひ、極めて活潑に利用さるゝ時には、凡ゆる方面に於て、自己と大自然と人生の法則の三者と一致調和して、幼兒を啓發するものである。斯くて此の「制度」の目的とする處は、職業選擇の手段、並に涵養と教育の手段を確立するのにあつて、其の手段は、相互に關聯して涵養と教育の目的を示すと同時に、大自然と人との緊密なる連絡に依つて、其の目的を表現し、以て兩者の要求を充足せしむるものである。

新入幼兒を迎へて

附屬小學校主事　堀　七　藏

一

新に入園する幼兒を迎へたる幼稚說保育について第一に希望したきことは幼兒が喜んで幼稚園に毎日通ふやうに仕向けることであります。幼稚園は小學校や中等學校と異り、幼兒自ら進んで幼稚園に入園したいと希望することは誠に稀であります。また親が是非幼稚園に入園せしめねばならぬ義務もありません。多くは親がその子供を幼稚園に入園させるもので、幼兒は親が幼稚園に入れたから幼稚園に來るといふだけであります。而してわが兒を幼稚園に入れる親達には眞に幼稚園保育の必要を痛感してゐるものは勿論少くないことでありませう。しかし中には單にわが兒が手足纏になるがために家庭に置くことが出來ないので、幼稚園に入れるといふ方もありませう。即ち托兒所に子供を預けるやうに考へて幼稚園に幼兒を入園させるものも相當ありませう。また隣近所にはよい遊び友達がないから幼稚園に入れてやらうといふ考の親達もあります。時には見榮のためにわが兒を幼稚園に入れるのではないかと思はれるやうのもないではありますまい。また幼稚園に入れるのは小學校入學のときよいからといふやうに小學校の準備教育として幼稚園保育を考へてゐる人が相當に多いかも知れないのであります。何れにしても新入幼兒は自分からすゝんで幼稚園に入園するものでないことは事實でありませう。

二

かゝる幼兒を新に入園させるのであるから、第一に將を得んとすれば馬を射よといふわけかどうか知りませんが、親達

の歡心を買ふことを第一として幼稚園を經營し、幼兒を保育することを第二とするところがあるかも知れません。成程幼稚園としては在園幼兒が多くないと經營が出來ませんから、幼兒の多く入園することを希望すると、幼兒の父兄に先づ幼稚園を理解せしめることが肝要であります。恰もコドモ向の繪本、玩具などの賣行のよい爲には大人の心を引込むことが肝要であるのと同じであります。繪本、玩具はコドモの欲しがるやうに、幼兒の心を引つける工夫も出來ますが、幼稚園では中々それが出來ないのであります。それに加へて幼稚園は相當な保育料をとるのであります。繪本、玩具ならば「買つてよ〳〵」と幼兒が親にせがむけれども、幼稚園では幼兒から入れて下さい」と願ふが如きことは先づ皆無であります。それで幼稚園の發展策を講ずるが爲には、どうしても幼兒をもてる親達の理解を得ることを專ら講究せねばならぬことは誰でも首肯するところであります。しかし幼兒の親達に幼稚園を眞に理解させることは誠に肝要でありますが、保育料を支拂ふから何かお土產を持たせて幼兒を歸らせるとか、小學校の教科を幼稚園で教へるからといふやうなことで、親の歡心を買ふ手段を講ずることは誠に考へ物であると思ふのであります。

三

幼稚園の發展策は勿論幼兒の父兄に幼稚園保育の重要なことを眞に理解させることが肝要であります。けれども先づ入園した幼兒が「幼稚園に行くのはいやだ」とか、幼稚園に行くとき泣くといふやうなことのないやうに仕向けねばなりません。幼稚園に入園した幼兒が幼稚園が面白くて面白くて、どうしても幼稚園に行かないでは居られないといふやうに、幼稚園を幼兒の樂園とせねばなりません。親達の方で「幼稚園へ行くな」といふと、幼兒が泣く位でなくてはなりません。幼兒がいや〳〵幼稚園に行き、泣き〳〵幼稚園に出かけるやうでは幼稚園の保育の價値は零だといつても差支ありません。幼稚園はその名稱の如く、幼兒の樂園で、幼兒が樂しく生活し得るところでなくてはなりません。幼兒が樂しく幼稚園生活をなすことによりて幼稚園保育の目的が達成せられることは申すまでもないことであります。幼稚園に於て、小學

校や中等學校のやうに學習本位で、幼兒を机腰掛に釘づけとなし、只「お行儀よくなさい」、「靜かになさい」と、活動そのものともいふべき幼兒を束縛して保育するやうでは、幼兒をして幼稚園をいやがらせるだけであります。かくては幼稚園に於て多少の知識を授けることが出來ても、それは眞の幼稚園保育ではありません。幼稚園はどこまでも幼兒が樂しく生活することの出來る樂園でなくては、その目的が達せられないのであります。幼稚園令第一條を引用するまでもなく、幼稚園は幼兒を保育してその身體精神を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養することが肝要であります。

四

幼稚園を幼兒の樂しき生活場所となすに左程六ケしい方法があるのではありません。幼兒に「幼稚園は樂しいでせう」「面白いでせう」「毎日缺席しないで御出でなさい」と說明しても、幼兒には十分徹底するものではありません。「面白い所、樂しいところ」と說明するよりも、幼兒が「どうしても幼稚園に行く」と親達にせがむやうにせねばなりません。それには無理のない、幼兒そのまゝの生活をさせることであります。といつても幼兒にお菓子を與へたり、幼兒にお土產を持たせることをいふのではありません。要は幼兒の生活に無理な束縛をなさず、幼兒をして樂しく遊ばせることであります。幼兒の全生活を上げて遊ぶことであります。同年齡または年齡の近寄つた幼兒が、我を忘れて一生懸命に遊ぶことが出來るやうに、幼兒の生活に無理な束縛をしないことが肝要であります。幼兒は大人と遊ぶよりも幼兒同志遊ぶことを好みます。幼兒が大人と遊ぶことは、大人が幼兒と遊ぶことよりも、一層苦痛であり面白くありません。幼兒が眞に樂しく遊ぶ、眞劍な遊びは幼兒同志が遊ぶときだけであります。勿論幼兒同志の遊びに於ても、いろ〳〵な事件が起り、幼兒が喧嘩することも少くありません。泣いたり、おこつたりすることもあります。しかしその喧嘩したり、泣いたりするところに幼兒の遊びの眞劍味があるのであります。大人が幼兒と遊んでゐて喧嘩が起らないが如く、幼兒は大人と遊んでゐては樂しくもなければ、また眞劍な遊びも出來ないのであります。況んや幼兒が朝幼稚園に來るから歸るまで、毎日机腰掛

に靜座してゐては全く遊びも出來ず、眞劍な遊は露程もないのであります。從つて幼稚園は毫も樂しくありません。家庭にゐる方が餘程樂しい。家庭の外に出て隣近所の子供と惡戯をしてゐるとこれ程樂しいことはない「幼稚園に行くのはいや」、「僕はうちに遊んでゐる」。「私は人形とおうちで遊んでゐます」。「幼稚園に行くのはいやです」と、駄々をこねるに相違ありません。

五

幼稚園で幼兒を樂しく遊ばせるには左程六ケしい方法は不必要であります。またいろ〳〵の玩具や運動道具を澤山設備せねばならぬこともありません。幼兒が十分かけることの出來るだけの廣い庭があり、幼兒がとんだりはねたりすることが出來るよい庭があれば澤山であります。よち〳〵走つてころんでも、たいした怪我をしないやうに、危險物がなければよいのであります。幼兒には木片でも木の葉でも、また煉瓦の破片でもそれは〳〵尊い遊びの材料となるものであります。立派に出來上つた玩具よりも、そこらにころがつてゐる木片が、餘程樂しい遊びの材料となるのであります。また立派な築山よりも無雜作に出來てゐる丘が幼兒にはこの上もないよい遊び場所であります。それですから幼稚園で幼兒を樂しく遊ばせる積りで、多くの經費を支出して澤山の設備をなす必要はありません。「あぶないから使つてはいけない」。「じつと見て御出でなさい」。などと、常に幼兒に口小言ばかり並べて幼兒の活動を束縛するやうな設備は寧ろしない方がよいのであります。しかし一切遊ぶ材料がない方がよいといふのではありません。また幼兒の遊びを放任して仕放題になせといふのでもありません。要は幼兒が樂しき生活をなし、その間に身體精神が順調な發達をなし、善良な性情を涵養することが出來るやうに、幼兒を遊ばせつゝ十分保育が出來るやうな設備をなし、また幼兒の生活を束縛することなく、さりとて放任するのでもなく、細心な注意を以て誘導することが肝要であります。細心な注意を以て誘導することは新入幼兒に限つたことではないが、特に新入幼兒の保育に於て肝要なことであります。

六

新入幼兒が今まで家庭に於て多くは自分よりも年長の者と生活をしてゐたのであつて、幼兒同志の社會生活が始めて行はれるのであります。親や兄姉が無暗に可愛がつて吳れるが爲に、家庭では大變に我儘に育つてゐるといふものもあります。また兎角嚴格にすぎて何かといへば叱られ通し、泣通しといふやうにいぢけた子供もないではありません。いろ〳〵の傾向をもつた幼兒同志が集つて、一つの社會生活を始めるのであるから、その點に十分着眼して、それ〴〵の幼兒の家庭生活を知り、その幼兒の特質を見て、それ〴〵の個性に應じた誘導をなすことが肝要であります。無暗に歡心を買ふやうに、幼兒のいふなり、するなりに放任することも出來ません。また一々命令したり叱つたりして、教師は恐しいもの、叱る人、こはい人と考へさせ、幼稚園はいやなところと、思はせることも誠によくないのであります。

七

新入の幼兒は幼稚園に通ひ、幼稚園で遊ぶために大變疲れるのでありますから、夜は早く眠り、朝は早く起るやうに家庭生活を誘導するやうにせねばなりません。一般に幼稚園生活をなすが爲に、幼兒の生活は規律正しくなるものであります。今までは度々間食したが爲めに、食事が正しく行はれず、食物に好惡が多かつたものでも、幼稚園生活を始めたので十分運動するため食欲が盛となり、食事が規則的となり、食物の好惡も少くなるのであります。從つて幼稚園に於ける晝食などに於ても、食事のよい習慣を躾けることが肝要であり、家庭に對して幼兒の食事に關し細心な注意を拂ふやう指導することが肝要であります。

尙ほ新入幼兒の保育につき注意すべき事項が多いのでありますが、あまり喋々することもどうかと思はれますからこの位で中止いたすことにいたしませう。

幼兒期に於ける歌謠的律動的生活

東京女子高等師範學校訓導　山内俊次

一　緒言

幼兒が環となりお手〻つないで遊ぶことはよく見受ける所のことであるが、仔細にこれを考察するならば、一種の韻文の吟誦であり、それにつれて踊ることであると見て差支ない。大勢の子供が共〻に一緒にならうとする觀念の大半は、出來るだけ謠ふのに適するやうに作られた唄そのものゝ中に存在してゐるとも見ることが出來る。

例へば短い言葉でも長〻と引つぱつて謠ふことにより、この唄の中に幼兒の最初の社會生活が生れる。この環から始めて仲間としての聲が發せられる。その調子は謠ふ者にも聽くものにも　る種の感動を與へねば已まないもので、爲めに仲間のものゝ意識狀態が、所謂一種の恍惚境に這入つた時、この遊戯は實に最高潮に達するのである。

幼兒期時代に於ける遊戯の中に最も多く律動的なものがあるのみならず、凡べて子供のすること爲す事それ自體が常にリズムそのものであるといふことは、幼兒教育に携はるものゝ特に留意しなければならない所である。又此リズムによつて子供の社會的融合が强められ社會性が陶冶されるのみならず、自然の社會的制裁も亦增されるものである。

グルー氏の述べる所によれば、かゝる場合叱責の調子を有つたリズムは、仲間から除け者にされるやうな不幸な子供に對してよく使はれ、その子供に取ては特定な仲間の一人に忠告された以上により、强く感ぜられるものであると。

この時代を通して謠はれる言葉の中にも、又踊り廻る動作の中にも、一般に初期時代の古謠ともいふべきものが比較的多分に含まれてゐるやうに思はれる。これ個體發達の原理から、原始的な單純なものが幼兒期に於ては比較的膾

炙され易い爲めであらうと思はれる節が多くある。併しながら、この時代がやがて次時代へ近づくにつれ、踊りも唄ももつと特別なものとなり、舞踊といひ、唱歌といはれるやうなものに文化する。

歌謠的律動遊戯は、幼兒期時代に始まるものではない。リズムの觀念はズツト早くから、單に手や足を動かすだけの運動に於ても、又音を出し始めた時代からも現はれてゐる。子供の初期のお喋りの中には常に含まれてゐる。例へばダダダ……の中にもリズムは存する。それと同樣に、子供は足で物を蹴る時にも同じことをなすものだ。二つの踵を床や椅子の上に叩きつけてドンドンドン……と、恰も元氣な一種の行進を眞似るやうに見える。恰も濱蟹のやうな幼兒の兩手の平均運動も、氷ばさみのやうに兩手を揃へる運動も、共に律動的な滿足を得んがためのものらしい。實にリズムは音に於ても動作に於ても本能的なものといふべきである。

二　リズムの發達的考察

幼兒の鄕土的歌謠遊戯とも見るものは、東京あたりに於ては「かーごめかごめ」とか、「今年のぼたん」とか「ひーらいた〳〵」といふやうな歌謠は、この幼き戯曲家詩人達に充分な滿足を與へるものである。これらの遊戯は、凡ての表現形式を合せ用ひた所の本質的律動衝動をよく滿足させるものといはねばならぬ。私共はこの時代の子供の遊戯の中に於て踊りも詩も未だ分岐しない時代の所謂詩想の親ともいふべきリズムの本源的な形式を見るのである。

この未だ分岐しないリズムの形式は、前述せし如く或は蹴つたり、或は話したりする中にその濫觴を持つことは、最早や爭はれぬ事實である。さうしてこれらのものは、又直ちに本能的に聯合するやうな傾向を持つてゐる。故に何時でも先づ綜合的な分岐前の表現形式となるのである。而もこれがこの時代の特徴と見なければならぬ。さうしてやがてこの律動的要求はその發出口を此所に見出し、彼所に見出し、はた　何所にでも發見する。さうして再びより特殊なより發達した表現形式の中へ分散するものである。

斯の如くにして、この歌謠的律動遊戯の發達に於て大人

が重要な關係を持つてゐることを見逃してはならない。子供は初期に於ける以上、表現遊戯を敎へない限り何物も知らない筈である。それにも拘らず、恰も社會環境が一種の媚藥に對する責任者であるかの如く、これらの表現一切を引き受けてゐるの觀がある。勿論友人社會の影響の大なるものはある。けれどもこれらの最初の影響は、子供の律動的な言葉に對する大人の應答に動機づけられて發達する。何故ならば大人は子供のアクセントや身振りに從つて、子供の言ふダダダダ……を必ずや眞似るといふ傾向があるからである。子供に向つて意味のないことをやかましく喋るのは一般に有害であるけれども、子供の合圖に答へるためのかゝる動作は餘り害とならないのみならず、これがやがて彼等の將來に大なる影響を持つのである。無意識的反射的な大人の行動も亦油斷するわけには行かぬ。

三　特別なリズムの遊戯

幼兒期時代に於ける律動的衝動の特別な表示としてブランコを愛好する動作となることは、これ亦重要な事柄である。抑〻このブランコなるものに對する子供の愛好心は一般的なものであつて、而も異狀なものがある。

こゝにブランコがあるとする。始めは何の氣なしにこの器具を動かして見る位であるが、直ちに綱や板の具合のよい仕掛けに氣がついて、すぐなれてこれに乘るやうになる。若し子供にブランコへ乘ることを許しておいたなら何時までも乘つてゐるであらう。電燈がついても未だ乘りつゞける位のことは有り得ることである。

このブランコへ乘ることも、その離れわざの上達するに從つて色〻と異つて來る。搖りながら片足で立つて見たり爪先で立つて見たり、綱が弛む程搖り擧げて見たり、搖り擧げた所で、板を蹴外して手丈けで身體を支へて見たりするやうな方法がそれである。而も單に前後に眞直に振り動かすのみで、同じ動作を終始續けることにさへ猶盡きない興味を持つらしい。

斯の如き魅力の原因は、これを說明すべくあまりに複雜してゐるが、子供に對するこの魅力の一部分は、想像力に於ける刺戟に見出すことが出來ると思ふ。私共が馬に跨つ

て、狼か豹の追跡に出逢つたやうなことを想像する場合それ等を完全に逃れて身命を全うするためには、一に我が馬の驚くべき跳躍疾走によらねばならぬ。その時の飛躍は恰かもブランコのそれの如くであらうと想像する時、迅速な行動そのものが、彼の多くの競技の如く、所謂異狀の魅力を持つものである。

又次に墜落の要素の中にも何物か愉快なものがあるらしく思はれる。速かに墜落するといふやうな情緒を起す近道はこのブランコを措いて他にないやうである。

一體墜落は、一時に多くの内臓に同樣な感覺を引き起す其感覺は一種の恐れと好奇心と一所になつた樣なものである。兎も角公園のやうな子供の快樂を多く所有してゐる所では、その運動器具がこの感覺を所有してゐる。子供はそれを自分にとらうと努めてゐる事は興味ある事實である。

而しながら、ブランコのより大なる魅力は、矢張りリズムの感覺の滿足にあると思ふ。それは私共の心の奥深くある所の、完全な循環的對照が、特別な形式によつて律動衝動を滿足させるのである。前に搖れ、後に搖れ、その間に休止を持つといふこの形式は、互に相交互するリズムの對照を、最も適切な形式で現はしたものである。前後、上下、努力と休息、社會性と孤獨性、相同じものと、相異るもの、斯の如くにして、この交互作用を私共は永久に續けて行くことが出來るのである。

四　リズムと子供の生活

子供をして、ブランコに乘せることの交互リズムは、人生生活に色〻な形式で現はれる。行動に於けると同じく、音の對照にも亦魅力は充分にある。有名な日蓮宗の御會式頃になると、小さな子供まで、盛に「ドンツク　ドンツク、ドン〳〵ツク〳〵」を繰返し〳〵ロすさんで、何時までもやまない。村のお祭頃ともなると「ピーピーヒヨロロー、ピーヒヨロロー」等と口ずさみ、運動會ともなれば「赤勝てよー白まけろ」と繰返し、「ジヤンケンポンヨ、イシカミジヤンヨ」と口ぐせのやうに繰返す。

この交互作用は、あらゆる文學、音樂、詩、建築繪畫の中にも常に流れてゐるものである。讃美歌の美の一部分は、

その應答唱歌の中に、私共が朝と夕、晝と夜、押寄せて來る浪と引返し行く浪の恒久的なリズムを聞くことにあるのではなからうか。

ブランコに乘ることや、或はこの交互リズムの形式が子供等に賓す滿足の他の原因が何であるかに就ては、最早や甚だ困難な問題であるが、而しそれは人間生活の必然的なリズムと一致してゐるやうにも思はれる。例へば努力と滿足、外出と歸宅、夜に會ひ朝に別れる。質問と應答、冒險と成功、需要と供給等のやうなものである。

併しリズムの他の形式に於けるが如く、この滿足は分析することが出來ないやうである。私共がそれを好むのは、好むやうに調子を合せるからである。釣橋が盛に搖れるのに對して、私共もこれらのものに對して搖れるのである。要するに、リズムは私共の精神組織の究極的な事實である。

何故に交互に息を吸ひ又呼き、心臟が內縮し擴大し、さうして働き休まねばならないかに就ては、確かに物的な理由があるであらう。併し人間がこの交互作用を既に有つてゐるといふことは、私共が精神的に話し得る、律動的動物である事實によつて說明さるべきであり、私共の喜びがこれら肉體的な狀態によるリズムの中にあると說明すべきではなくて、自然は人間の身體的組織をも含む色〻な他の物體のリズムに適合すべく、私共の精神を律動的にしたものだと見ることが出來よう。

傾斜することは、子供の好む交互リズムの他の形式である。設備の整つた運動場に於て、動搖したり、傾斜したりする色〻な形式の器械として、ブランコ・シーソー、廻轉シーソーや廻旋塔、躍動臺や遊動圓木などが、その大部分を占めてゐることは、興味ある事實である。水平棒や並行棒或は梯等も子供は大いに使用するか、大部分は交互リズムといふよりそれから廻轉したり飛び下りたりする方法に於てである。

單なる跳り方や、音の遊戲から發生して「まゝごと遊び」により、他方に於ては「環遊び」によつて、舞踊、文學劇等に發達したリズムは、藝術の根本をなすものであつて、少くとも子供の生活の凡ての場合に必要な要素である。人生の中に於て、この本能の活動力がなかつたら人は

藝術家たる事も出來ないであらうし、人をして同情的感動に敏感ならしむる事も出來ないであらう。若し之等の働きがなかつたら、藝術鑑賞家たるの資格はないであらう。

リズムの本質は、常に行動の觀念の中にある。平素趾の中にもリズムを感じなければならぬ。この意味から舞踏は藝術の親である。さういはれてゐる。有名なショパンは、彼の音樂に對する靈感をエツスラーの舞踏から得たと傳へられてゐる。音樂は生理的解剖學的活動を取り除いた舞踏であるといはれ、詩や建築にはてその行動を回想させるものも亦舞踏であるといはれてゐる。

凡て私共を感動させるものは行動であり、行動を何等かの形式で現はしたものが舞踏である。さうして、リズムは私共に對する行動の聲である。又人間の心に浸み込む行動の形式である。

子供をして偉大な藝術の世界に迄擴充しようと欲する人々は、藝術の眞髓が色々な子供の動作によつて子供の心に確實に理解され、又その生長の要素と確かに結びつくやうに遊戯を奬めなければならぬのである。

五　偉大なリズムの働き

リズムによる團體的遊戯は、その團體精神をしてよく無我の境地へと達せしむるといふことの社會的意義を考へると、律動本能の機能といふものが明瞭になつて來る。即ちこの本能によつて、遊戯の精神的最高潮を招來すること。、人類に對して測り知ることの出來ない奉仕をするものである。實にリズムは尊き社會的融合の使者であり、偉大なる世界的融合の媒介者である。

このリズムは私共日常生活に於て、最も密接な關係にある所の有形的な共働にも亦必要缺くべからざるものである。例へば私共が乘馬で、ジャンプを練習中よく經驗することである。始めは誰しも一樣に型の如く馬の耳のうしろを衝いて見るが、不結果に終るであらう。而しながら漸次練習するにつれて、遂には馬の行動のリズムを知るやうになり、馬と自分との一致を見、そのジャンプの行動の起る直前に精神にそれを豫知することが出來て、乘馬者の意の如くによい結果を得るやうになる。人は稱して、それをジ

ヤンブの「コツ」といふ。一にリズムを通しこの身心一致の境地を見出すことに外ならない。

誰しも、その「コツ」を體得しなければ、大きなトランクを容易に列車に持ち運ぶことは容易でない。漁船を砂濱から波打際まで引きずり下ろす漁夫達の、あの「コツ」は速かにリズムの偉大な力である。何事に於ても一人の人間が出來る範圍を越えた仕事は、リズムによる社會的共働によつて容易に達成することが出來るものである。

共働行爲が、反覆作用のものであると、そこに一層リズムの重大な使命が生ずる。これは漁船に乘る多くの漕手のよく知る所である。航海といふことが未だ帆船萬能時代の幾多の船歌なるものが、よく當時の消息を證明してゐる。多數の漕手の漕ぎ方を指揮することは、オーケストラのタクトを取るのに髣髴たるものがある。昔から漕手を一齊に漕がせる手段として、歌謠を伴はしめたのは偶然のことではない。以來今日に至るまで漕手の屈伸運動は實に音樂的なものとなつてしまつた。

我が國の習慣として、普通建築の土臺下の地かためには「地づき」と稱するものがある。神社佛閣の如き大建築にはそれに伴つた大規模の「地づき」を行ふ。多數の人夫が「地づき唄」と稱する者により共働の効果によつて目的を達成するのは、リズムの力と言はねばならぬ。これとても、そのコンダクターに相當するものがあつて秩序整然たる團體行動を統禦する。所謂「音頭取り」がそれである。橋梁道路の土木工事に於ける「ヨイトマケ」も亦これに外ならない。

人類の心理學的結合は効果の最も多いものである。例へば音樂的な力で、かの漕手の身體を遂に立派に作つたばかりでなくその靈までも作つた。故に船を思ふまゝに操縱するのみならず、氷山も猛獸も樹木も遂にこれを容易に征服するの力とはなつた。人が自然を征服するの力とはなつた。人が自然を征服するの力とは正にこれであつた。

聯隊は兵卒の足に對して規則正しいばかりでなく、その心に對しても嚴格である。故に進軍する時その心持ちも亦聯隊にピタリと合つてゐる。リズムは社會的な鍍金術師である。彼は個人の心をも氣質をも彼のとなへる呪文に從ふ一つの本質の中へと融合させる力を持つてゐるのである。

子供達が謠ひ、歩き、踊る時に「環遊び」に於ける如く彼等はどうしなくてもハツキリと聞くことを知つてゐる。

他のものは今何をしてゐるか、何をしようとしてゐるか、又「彼等は如何に考へてゐるか」と。

さうして各〻は、他の者が知ることをも亦知つてゐる。而も此歌や運動が深まるにつれて、お互が完全に理解し合ふのである。其理解は、リズムの影響が增すにつれて益〻深まつて行く漣、波、波濤、怒濤……遂にその仲間の情緒が恰も潮の流れのやうに同じ鼓動に搖れて來るのである。

六　リズムと教育

ギリシヤ人は色〻な形式に於て、彼等の教育の基礎をリズムに置いた。彼等はそれをムジーク（Musike）と稱したのである。

ルネツサンスに於けるイタリヤ人は、詩人であり、畫家であり、ギリシヤ文化の模倣者であり、研究家であつた。ミルトンは音樂及び詩の地位を教育に於て重要なものとして次のやうなものに信じた。

「彼の學校の生徒は、食事前の休憩時間に於て、音樂の莊嚴な曲を聞いて、勉學に疲れた精神を整頓することが出來る。その間にオルガンの上手に彈くものが、高尙な演奏法を以て空想的な音樂を奏し、或はコーラスのメンバーが如何にも上手な謠ひ振りで優れた作曲家の歌を謠ひ出す。さうかと思ふと、一方やはらかな閉鎖音の樂器をかなでて宗教的な歌をかもし出して來る。これらの音樂は、彼等の性質態度の上に大きな影響を招持するものであつて、粗雜さを善良溫順にし、狂暴性をもよく矯正し得るものである」と。

ドイツ國民性は、シラー（Schiller）の詩、並にベートウベン（Beethoven）の交響樂の中にある。祖國といふものは政治組織の完成される以前、既にこれらの詩や音樂の中に明かに存在してゐたのである。戰爭や政治的手腕は、リズムが既になした所のものを單に是認するに過ぎない。このリズムの建設的な偉大な力は、なほその力を支へるために存在してゐる。曾て或るドイツ人が、市民合唱團の一メンバーとして晴れのコーラスを終へた直後、聽衆の外人に言つて曰く、「ドイツ人がこのやうに謠ふ間は決して征服されないぞ」と。實にその通りであつた。經濟的には屈服の已むなき破目に陷つたが、精神的には決して敗北しなかつ

た。寧ろ異狀な愛國的精神にもえ、現に目覺ましき復興振りを示してゐるではないか。

リズムによる教育は、多くの人にとつて非實際的のものゝ如く見える。實業家の要求する子供は、文字を書くことが出來、計算が出來、一般常識を具へてゐさへすればよい。實業方面に於てリズムは何の用があらうといふ。斯の如くに考へ又感ずる人々は或る理由からさうした子供が非常に實際的だといふ迷執を持つてゐるのである。

而し、斯の如き子供が果して實際的なものであらうか。子供が尊重することの出來る生活方法により、人間に對して完全な知識を傳へることに於て、ギリシヤ人やイタリヤ人は、他のものより成功しなかつたであらうか。單に實業問題について考へても、誤まれる彼等の行動に於て致命的な打擊を受けた如くドイツ人は世界の市場から急速に沒落して行くものであらうか。寧ろ其反對に彼等ドイツ人こそは、現在世界に於て最も優れた實行的な國民ではないか。

ドイツ人の實行教育に於ける凡ては、徹頭徹尾愛國的理想主義である。さうして音樂が深くその經緯をなしてゐる事は特に注意すべき點である。此意味に於て靈の修養は實業方面に於ても、人間機構の重要な部面であるといへよう。

屢々考へられたやうに、若しも靈の修養が實業に於ける防害であり、又扁桃腺や附錄の如きものとして處置され得べきものならば、それを除去した方が賢明な策であらう。實業に於ける成功は必然的に人生に於ける成功を意味してゐるだらうか。私共が本當に認める所の有力な人物とは自己の人生をよりよく救ふ人であり、その精神を遺憾なく行動に現はすことの出來る人である。若しも精神を取殘して出發することが出來たとて、いくら行つても全然別な人間にはなれない。遂ひに引き返して再び出直さなければなるまい。私共は如何に遠くへ旅したかを數へるのでなく、如何に遠くまでその理想を持運んだかが重要な問題である。その外のことは畢竟するに籠の中の栗鼠みたいなもので、いくら激しく行動したとて、そこに進歩はあり得ない。

リズムは靈の生長發展に於ける一つの方法であり、人間精神の必然的な態樣であつて、靈の究竟の目的地へ向ふ唯一の道である。エマーソンが言つたやうに、私共の實際的な要求でさへも謠ひ且つ踊らなければならない。況んや子供の世界からこの律動本能を取去らうとすることは、競走に松葉杖をつかせて出すやうなものであると。不自然も之より大なるはあるまい。

コドモカルタから幼兒唱歌（1）

葛原しげる

まへがき

本誌にはもう珍らしくないのでせうが、私達は、一昨年「子供の作つた子供カルタ」をはじめて見て、驚きました。その文句に、また其の繪に――。

その文句こそは、全く、素直に、何の奇もなく、何の作爲もなく、いはゆる口をついて出たものに過ぎないのですが、いかにも端的で、私共大人には思ひもつかない名文句になつてゐるのに驚かされました。

由來、コドモにはコドモの世界があり、コドモにはコドモの表現があります。その世界を大人が窺けば、愚にもつかないものとしか見えないのですが、それが、子供にとつては、大問題なのです。コドモの表現の中には、それが端的であるあまりに、大人には平凡としか感ぜられないものでありながら、實は、異常に强烈な表現である場合があります。

それらの中から出來た「コドモカルタ」の文句を、はじめて讀んだ時の私達の驚きは、幼兒の表現力の力强さに、頭の下がるを覺え、はては、悅んでしまつていろ〳〵の會合の席上で何處となく、これを紹介しては、味はつたのでした。そして、遂にその中の幾つかをば歌にしました。その歌の中には、もう、曲の出來たものもあります。

まづ、歌にしたいと考へさせられましたものを列記して見ますと、

イモ　ガ　コロガル
ロバ　ガ　ニゲル
ハチ　ガ　サス
ニンジン　タベル　ウサギサン

トンネル　ハ　クライ
チカテツドウ　ハ　トンネル　バカリ
ワクノボリ　ハ　オモシロイ
ヨロヒ　ヲ　キタイ
ムシ　ヲ　トラウ　ト　シタラ　マタハネタ
キナカ　デ　オイモホリ
ノハラ　ハ　ヒロイ
ヤネノ　ウヘ　ノ　スズメ
マリ　ガ　ツキタイ
ケーブルカー　ガ　ヤマ　ニ　ノボル
フクレタ　フウセン
アサヒ　ガ　デテル
サル　ハ　ヒツカク
キリン　ノ　クビ　ハ　ナガイ
メダマ　ノ　オホキイ　キユーピーサン
スズ　ガ　ナル

その他です。中には、もう、この句そのまゝで、立派に童謡の一節を成してゐるものもありまして、愉快の至りで、すぐ、まとまりまして、立どころに、幾つかの童謡が生れるのでした。以下、その中の幾篇かについて、御批評を乞ひたいと思ひます。

（一）

ロバ　ガ　ニゲル（小松耕輔氏曲）

一、ロバ　ガ　ニゲル
　　ロバ　ガ　ニゲル
　　トコトコ　トツト
　　トコトコ　トツト

二、ロバ　ガ　ニゲル
　　ロバ　ガ　ニゲル
　　オミミ　ヲ　フツテ
　　トコトコ　トツト　（昭和幼年唱歌第二集）

驢馬は、逃げ出すにきまつたものではありませんけれども、おとなしいことが特徴の驢馬は、逃げるのが、ふさは

しいのです。逃げないで、子供と仲善しで、東京に近い鶴見の花月園でも、幾頭かの驢馬が、子供を乗せてくれますが、此の馬、決して、疾走したり、荒れ出したりした事がありません。手綱を引張つても、動かない事が、若し有るとすれば、それは、強情なのではなくて、實は、臆病なので、恐ろしがつてゐるのだと、きゝました。そこで「ロバガニゲル」時にしましても、決して、まつしぐらに、當るものは蹶倒して逃げるのではありません。その逃げるやいかにも驢馬的なともいふべき逃げ方をするのです。それをあらはすには、決して、

パカ〳〵パツカ　パカ

ではないのです。又、きつと尾も振つてゐませうけれども、驢馬が、普通の馬と異なるところは、その走り方と共に、その長耳ですから、「お耳を振つて」としました。

お耳を振つて逃げるものには、兎がありますが、兎の逃げるのは、きつと、ピョン〳〵ですから、これは、

「お耳を振つて、トコトコ　トツト」としました。

尙、各節ともに「驢馬がにげる、驢馬がにげる」と重ねましたのは、その實際の表現です。もし、馬のやうに速力の大きいものでしたら、こんなに反覆してゐる遑はないのですが、驢馬は、稍のろいのですから　さういつてゐる間にも、まだ、すぐ眼の前を、やつと何メートルか、逃げたけだなのです。もし速いのでしたら、

ロバ　ガ　ニゲル
ロバ　ガ　ニゲル

などと悠長に見てゐる譯には參りません。これはどこまでも、

トコトコ　トツト
トコトコ　トツト

なのです。ですから、本氣で逃げてゐるやうにも見えないのです。「お耳を振つて、トコトコトツト」なのです。「お耳を振り振り……」ではないのです。「振り振り」は、少し忙がしいのですが、これは、さうでなくて、お耳を「振つて」のんきに、ゆつくり、それこそ、トコトコトツト、トコトコトツトと、逃げてゐるのです。

のちに同じ驢馬を、箏曲童謡として見たくて作りました

のを御らん下さい。これは、私がよく勉强に出かけます相州湯河原溫泉に、昨秋までゐた驢馬の實況です。赤いモスリンの手綱がついてゐまして、首に鈴が、三つ宛つけてありました。それが、湯河原の街道を上下しては、浴客中のコドモが乘つてくれるのを待つのでしたが、如何にものんびりと、ゆつくり、ゆつくり歩くのです。すると、三つの鈴が、めい〳〵に鳴り、又、時に、鈴と鈴とが當り合つて鳴るのです。しかし、その鈴の音は、まことに、驢馬向のものでした。チリン〳〵でなく、チヤラン〳〵でなく、無論ガラン〳〵でもないのです。

ロバサン　　宮城道雄氏作曲

ロバサン　ロバサン
　　トコトツト
オミミ　ピヨコ〳〵
　　トコトツト

カララン　カララン
　　クビ　ノ　スズ
オミミ　ピヨコ〳〵
　　トコ　トツト

ラヂオのテキストには、此の「カララン」が、「クララン」と印刷されてをりました。なるほど、大きいベルの音を英語では、クラング」と、擬聲化してかいてありますから、「クララン」といつても鈴の音になります。しかし、それは大きい鐘のベルです。小さい鈴のベルは、クラングでは絶對にありません。どうしても、カランです。しかし　カララン、カララン」ではありません。「カララン」と、ラが二つ重なるのは、鈴と鈴と二つが相打つ音です。

「ロバ　ノ　オミミハ　トンガリオミミ」

とは、私の受持の小學三年の兒童の綴方に出て來た文句ですが、某氏の舊作童謠に、「ガンギリオメメ」といふ句がありました。それはなくても「トンガリオミミ」は面白いではありませんか。それほど、驢馬の耳が、特異である事は、前記しました。ですから、二節とも、」オミミ　ピヨ

コ〳〵一を入れました。

（二）

ワクノボリ＝ジヤングルジム、これは、危なさうに見えて、實は、少しも危なくない運動器具（？）でした。私の受持の小學三年は男兒三名、女兒三十三名といふ小さなクラスですが、殘念ながら、弱いお子さんが多いので、日光と風との力を借りて、少しづつでも丈夫にしたくて、私は、山積する直し物は放課後へ廻しては、天氣さへよければ、皆と　ジヤングルジムに登つて「鬼ごつこ」をしてゐます。小さい人達には程よい距離の枠の棒が、大人である私には、狹すぎて、脛がつかへたり、頭が、くゞれなかつたりして、追ひつめられる事屢々ですが、しかし、ジヤングルジムは、體の全部を、曲線的に動かす事に於て、よい運動が出來ます。それには兩手兩足に力を十分入れてゐないと、危ない樣です。いえ、手にも足にも自然に力がはいる樣です。そこで、

お手々　しつかり　わくのぼり
あてよ　しつかり　わくのぼり

の句を重く用ひまして、三節のものが出來て、これを、當時の女高師附屬幼稚園主事堀先生のお目にかけましたら、

わくのぼりは、縱横自在に、くゞりぬけられる上、一番上に立つて、手ばなしで、お山の大將も、きめこめられるのです。萬歳も出來るのです。

といふ御返事でした。それで、

上に　のぼつて　萬々歳
お手々をはなして萬々歳

としましたら、この作曲をなさつた梁田先生が、萬々歳が一つの方がよいではないかと仰有るので、いろ〳〵相談しまして、左記のとほりになりました。

1、一段　二段　わくのぼり
　三段　四段　わくのぼり
　　ジヤングル　ジムジム　ジヤングルジム
　　ジヤングル　ジムジム　ジヤングルジム

2、お手々　しつかり　わくのぼり

あてよ　しつかり　わくのぼり
ジヤングル　ジムジム　ジヤングルジム
ジヤングル　ジムジム　ジヤングルジム

3、横に、くぐるよ、わくのぼり
縦に　のぼるよ　わくのぼり
ジヤングル　ジムジム　ジヤングルジム
ジヤングル　ジムジム　ジヤングルジム

4、お手々　しつかり、わくのぼり
あてよ　しつかり　わくのぼり
一ばん上で　うれしいな
お手々　はなして　萬々歳

（昭和幼年唱歌第二集）

一體、「ジヤングルジム」とは何の事でせう。まだ、調べて見ませんが、ジヤングルは、籔でせうか、ジムは、人の名でせう。何にしても　縦横上下に立體的に、棒が組合はされてゐるのが、謂はゞ、ジヤングルなのでせうが　それとは別に何となく、「ジムジム　ジヤングルジム」といふ言葉の様な氣持がしてなりません。誰かは、「ジングル　ジヤム」といひましたが、苺ジヤム、無花果ジヤム、そして、ジングルジヤム。一つ位はかういふ名のジヤムがあつても宜いでせう。

（三）

人蔘たべてる兎さん　　小松耕輔氏作曲

1、兎ちやん　兎ちやん　白兎ちやん
さつきから　何を　たべてるの
ちやん　と　坐つて　食べてるね
かはいゝ　お口で　もぐ〳〵と

2、坊つちやん　坊つちやん　お坊ちやん
わたしは　人蔘たべてます
ほんとに　おいしうございます
あなたも　お一ついかゞです

題として頂きましたのは

ニンジンタベテルウサギサン

ですのに、どこにも、その文句が出せなかつたのが殘念です。けれども、ウサギサンと大人らしくいはないで、

兎ちやん〳〵　白兎ちやん

と可愛らしくいひましたのは、惡くないでせう。そして、

ちやんと坐つて　食べてるね

かはい〻お口で、もぐ〳〵と

といふのは實況です。兩手で持つて食べてる可愛らしさ。たしか、木鼠も、さうして食べますが、兎、白兎の方が、日本人にとつては親しいものです。そして、白い兎が、赤い人蔘をたべてるのですから、美しい事です。

第二節は

お嬢さま　お嬢さま　お嬢さま

としても差支なく歌はれます。そして、ですから、

ほんとに　おいしうございます

あなたも　お一つ　如何です

と、忠義をつくして、申してをるのです。大人らしくても。

（四）

「虫を取らうとしたら又はねた」といふ文句は、そのまゝ歌にはなりませんが、その境致は、非常に面白いものです。それで、第一節は、すぐ、まとまりましたが、この第二節には、いろ〳〵說があります。

虫がはねた　　梁田　貞氏作曲

1、ピョーン　と　はねた

ピョーン　と　はねた

虫が　はねた

觸つて見たら　ピョーンとはねた

抑へようとしたら

ピョーンとはねた

抑えたと思つたら　又はねた

2、ピョーンとはねた

ピョーンとはねた

虫が　はねた

私が觸つたら　ピョーンとはねた

母樣觸つたら　ピョーンとはねた

父樣觸つたら　又はねた

（昭和幼年唱歌第一集）

昔、といつても明治の末頃、當時の學習院々長であつた乃木大將は、國語讀本の文の下品なところは、一々、訂正させらたとききました。即ち、敬語は祖父祖母にのみ使つてあつて、父や母には使つてない事を慨いて、一々、訂正させられたのであるとか。

此の童謠についても、それを考へて、

「お母樣　觸られたら」

「お母樣　お觸りになつたら」

何れでも歌へるのでしたが　しかし、幼兒としては、やはり、あどけなく、

「母樣　觸つたら」

でよいであらうといふ事になりました。それでも、尙氣にかゝるので、いろ〳〵の友人や奥樣方にも謀つたのですがやはり幼兒が、あまり袴をつけるのは　幼兒らしくなくなつてしまふといふことに一決して、今では安心してゐる次第です。

――（以下次號）――

輝ける母

——（母の日のことに就て）——

古川　茂

母……。

お母さん……。

この言葉は、單に言葉だけでも私達の生活に大變強い響をもつてゐます。

夕燒に紅く染つた空を仰いで『お母さん』と呼んでみます、その時、私達の心に甦つて來るものは、いつも幼かつた時の姿であります。母の背に無心に寢つた姿であります。

暮かゝつた空——、ねぐらを急ぐ小鳥の群——、かすかに響く晩鐘——、それはみんな背にむづかる愛兒の爲に、心から祈りつゝ夕映の下に子守唄を歌ふ、よき母の背景であります。

坊やはよい子だ
ねんねしな
坊やのお守は
　何處へ行つた
あの山越えて
　里へ行つた
里のお土産に
　何貰ふた
デンデン太鼓
　シヤウの笛

この歌は凡そ人の子の誰れもが憶ひ出の奥にしつかりと秘めた懐しさであります。

善き事の一切は、この歌の調から生れて、母の限りなき

寛い心に育てられ、靜かに心から心へと傳へられて來ました。

母の子守唄――。

この歌に秘められた心こそ、何にも增して根强い教であります。

この教には理論的なことが無かつた筈です。

また『ねばならぬ』と云ふ命令的な冷たさも無かつた筈です。

たゞ祈りによつて生れた愛の教へでありました。

今でも、仕事に疲れて、やつと家庭に歸つた私達が、解放された氣安さに、緣に座つて夕燒の空を眺めながら遠に歌ふ子供達の聲を聞きますと、まざ〳〵と浮んで來るのは矢張り母の歌つてくれた子守唄です。

そうして其の幽かな聲は、古い記憶の扉を破り、淡い哀愁のリズムに乘つて、靜かな黃昏に懷舊の情をそゝります。

空と母、子守唄。

この瞬間に甦る母の姿こそ『聖母マリア』の姿にも似て淨く、私達の童心を搖り動かして、社會の繁雜さに疲れた私達を慰めながら、やがて反省を與へて行きます。

この力ある子守唄。

世の母と云ふ母の歌つた子守唄。

それが如何に單調な調であつたにもせよ、歌ふ母の聲が惡かつたにもせよ、これ程 私達の生活に喰入つて力强く、印象深いものはありません。それは母が名歌手で無く『母』であつたからです。胸に燃え盛る愛を滿ち充ちた母であつたからです。

母はこんなにも、愛兒の爲に總てを捧げ盡してくれました。

また如何なる苦しい犧牲をも拂つてくれました。

これこそ、私達がほんたうに感謝せねばならないことです。

『母の日』はこの總てへの感謝を捧げる爲に生れたものです。

勿論、これは日本に於て始めて生れたものでなく、古く英國で行はれてゐたものでありましたが、最近日本でもこの運動をする樣になつたのであります。

昔、英國の子供達は親の膝下を離れて、或る學業に、或は實業に就いても必ずこの日にシムネル(パイの一種)と云ふお菓子を持つて母の下に歸り、一日樂しく母と語らひました。

それは丁度、日本の『藪入り』の様に行はれてこれを『母親訪問日曜(マザリング サンデー)』と呼んでゐました。

これが今から凡そ三十年前から米國に於ても行はれて來たのであります。勿論、初めはほんに一部の教會のみで行はれてゐたのですが、やがて學校に行はれ、會堂に行はれ街頭に行はれて、遂に全米國の年中行事の一つとなつて、然も非常に大切にされたのであります。これが現在の『母の日』Mathers day で、何時も五月の第二日曜とされてゐました。

日本では十數年前、ミセス、ドレパーが提唱しまして一部の教會にこれを行はしてゐましたが、過去五年、私達の『葡萄の家』がこの運動を一般化せんと志しまして、年々この運動に努力して來ましたが、昨年、遂に宿望たる一般化を具體化し、街頭に呼んだのであります。

この運動に共に努力された團體には『日本全國母の會』があり『母の日會』があります。

この運動がかうして次第に盛んになつて來ました事は、ほんたうに喜ばしい事であります。

この日、私達は特に母を慰め、母を喜ばし、遠い母には手紙を書き、亡き母には墓參をすると云ふ樣に、一日を母の爲に使ふ事を考へたいものです。

外國ではいろ〳〵の團體が、或は病院、或は兵營に、或は刑務所に出かけて、母の『シンボル』である紅白のカーネーションを贈つたり、母に贈るべき、美しいカードを配つたり、封筒や用箋や切手を寄贈したり、手紙の代筆までしてあげるさうです。

たとへ刑務所の堅い鐵窓にある罪人でも、この日の運動によつて、まざ〳〵と甦る幼き姿に、溫き母の愛撫を憶ひ、その教訓を想ひ浮べて涙するに違ひありません。

母の愛によつて、眞に悔悟した例はあまりにも澤山であります。

をさなくて罪を知らず

胸にまくらして
むづかりては手にゆられし
むかし忘れしか。
春はのきの雨
秋は庭の露
母は涙かわくまもなく
祈ると知らずや

僅でも、吾が子より送られた一枚の葉書、それこそは何物にも替へ難い喜びである筈です。

私達こそ切實に母の愛を考へなければならないと思ひます。

さて、五月の第二日曜を『母の日』として守ることに就ては種々な意見があり、昨年も他の團體に於て、もつと日本化した實行日を定めてはとの意見もあつた樣に思ひますが、私達として考へますれば、かうした運動こそ、日本だけでなく　もつと國際的に行ふべきであると信じて、この國際的な『母の日』を選んだのであります。

その方が自然張合も増し熱も増し、更にこの運動が大きくなるものゝ樣に考へたからであります。

母こそ、單に日本の母でなく、世界の母であるべきです。

この意味で、五月の第二日曜を『母の日』とし、本年は、東京市、葡萄の家、日本全國母の會、母の日會の四團體が共同主催で行ふ事になりました。この運動によつて益ゝ私達の心に言ひ難い潤ひの與へられる事を信じております。

以下に掲げましたのは私が『母の日』の爲に作つたもので全國的に配布された歌であります。

みどりの若芽丘に萠え
あまねく光空に滿つ
今日ぞ母の日母人に
感謝の祈り捧げすや

けふぞたゝへん
こぞりてたゝへん
たゝへん、たゝへん
吾等が母を

茜色染む夕暮を
『あの山越へて』鳥も行く
溫情あふるゝ育みは
抱きて歌ふ子守唄

今日ぞ　たゝへん
こぞりてたゝへん
たゝへん　たゝへん
吾等が母を

慈愛は深く幾年の
さとしに淨き涙あり
不滅の愛は輝きて
曉きの色　香るごと

今日ぞたゝへん
こぞりてたゝへん
たゝへん　たゝへん
吾等が母を、

文化の光消るとも
母が御胸にまたゝける
愛の燈は永久に
吾等を護り導かん

今日ぞたゝへん
こぞりてたゝへん
たゝへん　たゝへん
吾等が母を

新任保姆の感想を聞く

目白幼稚園　和田實

昭和六年度も愈終りを告げて、先月の末には各所の保姆養成所から、新任の保姆さんが、所々の幼稚園に赴任されたことでせう。今頃は所々の幼稚園に於て、是等の新任の保姆さんが、在學中の理想を實現せんとて鋭意努力を勵まれて居られるに相違ない。そして、理想と現實との間に、斯くも大きな相違があるかと云ふことに就いて、始めて、體得されるものがあつたらうと想像される。手鹽に掛けて御世話した新任保姆さやが、就任後、始めて來られた時、就職以來の感想に就いて聞くことは、中々興味もあり、參考にもなり、得る所の割合に多いものである。今、是等に關する私の經驗に就いて、少し述べさせて頂きませう。

新任保姆甲の話

私の赴任した幼稚園は村落の小さな私立の幼稚園であります。子供の數は二十人少し、小さな町の端に位置して畠の中にポツリと建てられ、隣家と云ふても、二三丁の道を歩まねばならぬ位で、勿論、聲など聞えません。園舍は十五坪ばかりの遊戯室に六坪の保育室で、外に三疊の疊のある部屋と玄關と臺所と便所とあります。此處に、私は唯一人宿り込んで子供の世話をするのです。始めて宿つた夜は餘りの靜かさに、寧ろ興奮して能く寢られませんでした。夫れで、朝は早く起きて、掃除其他を濟ませ、身仕舞をして、子供の來るのを待ちました。頃がて、九時近くなつた頃に、「先生お早う」と大きな聲で、元氣よく入つて來る子供がありました。續いて「お早う、お早う」と云ふ聲が同時に重なつて聞えました。私は心から氣も浮き立つて「お早う御座います。」と滿身の愛撫の心持で、相好崩して迎へました。そして、色々と話し掛けて見ました。所が子供はきよとんとした顔付で、「何んだ、新奇の先生か、まだ　類

付合はしねえぞ」と云ふ樣な素振で、返事もせずに向ふの方へ行つて仕舞ひました。唯流石に、女の子の或ものが、そばに寄つて來て「先生！　先生のお家何處？」などと聞くものがありました。之に力を得て、先づ女の子と仲好となりました。スルト、向ふの方で喧嘩が始まりました。之をさいばんして見ると、滑り臺の順序を魁しようとする爭ひでした。之を訂して、ヤレ、一段落と思ふと、後の方で女の子のけたゝましい泣き聲が響きました。何うしたかと思つたら、男の亂暴ものが、何か氣に入らぬとて、打つたのでした。斯う云ふ樣にして、最初の一日は殆んど喧嘩の仲裁で日を暮らしました。次の日も又其次の日も大體斯樣の始末で、幼稚園は喧嘩と打ち合、引き搔き合の中に、一日々々を送つて行くに過ぎませんでした。此間に唱歌を敎へたり遊戯を敎へたりしようとしても、男の子はてんで、興味を持たず、唯女の子だけが、少し面白さうにして居るだけでした。手技手工の如きも駄目、唯、好きなのは、お話を聞くことゝ、自由畫を書くことだけでした。それで、私は成る可く子供の嫌な樣なものを避けて、紙を少し使ひ過ぎると云はれるかも知れぬと考へながらも　自由畫を多くやらせることにしました。處が困つたことには、先生犬書いて、先生鳥書いて、先生馬の驅けてるところ書いて、などと略畫の要求には困りました。が兎も角、そうして數日を過しましたら、園長なる設立者が廻はつて來て曰く、「何うも何の先生も新任の人は紙を使ひ過ぎて困る。腕のない保姆は子供に繪ばかり書かして居る」とのことでした。さうかうして居る中に二三週は過ぎて、今は早一ケ月にならうとして居ますが、相變らず、幼稚園の日々は喧嘩と打擲との修羅場で、子供は一向靜まりません。今では喧嘩の仲裁の奔命にも疲れて、少し位の事は唯見屆けて居るだけにして放つて置きます。出來た結果を兎や角と心配して仲裁などするよりは、モツト根本的に爭奪、打擲の源泉を枯らして仕舞ひたいと思つて、能く〳〵觀察して見ると、七つになる男の子で、體力もある怜悧な亂暴もの、之が何時も喧嘩の發頭人でした。家は園長の親戚に當る土地での資產家で、其家の家作に住つて居る小商人の子供三人を取り卷きにして横行して居るのでした。資產家の子供をAち

やんとしませう。此Aちやんはａｂｃの取卷に、主權者の如く立てられて、少し氣に入らぬものは、三人の取卷をけし掛けて苛めるのでした。日々の修羅場は皆其結果でした。今此Aを如何に處直せんかと云ふことが私の宿題です。先生何うしたら此Aちやんをおとなしい善い子供にすることが出來るでせうか。

次に、問題なのは園長の干渉です。或時、私はAちやんが餘り横暴であつたので、Aちやんを叱りました。そして、Aちやんを連れて來て、迫害した子供に『ご免ネ』を云はせました。是が、丁度園長なる人の來て居た時でした。私は善いことをした。私が公平無私に、何の子供をも、正義と教育愛とで、世話して居ると云ふことを見て貰ふことが出來た。定めし園長も、心の中で滿足を感じて居て呉れるだらうと、内心已惚れて居たのでしたが、所が結果は、大違ひで、終業後私は園長に大に叱られました。園長曰く、貴女の行り方は私の主義に反する。彼の樣な場合にAちやんにあやまらせるのは、Aちやんを大勢の子供の前で恥辱することである。人を恥辱することは罪惡である。そんな下手な保育法では行かぬ。と云ふ譯で大分長い説教でしたが、私には解せませんでした。園長は某專門學校を出て居るとか云ふ事業家で、大した資産家ではない迄も、資産家の流れを汲んで居る我儘一鐵の頑固ものゝ樣です。

或時は又、遊戯室の玩具の破片が散亂して居ると云ふては始末が惡るいとて叱られ、或時は玄關口の掃除が惡いとて叱られました。來る度に便所の中まで檢査して、何時も掃除の惡るいのでは叱られて居ります。

或時は、又、折り紙、半紙、豆、ヒゴの費消高が多過ぎるとて叱られ、玩具の請求に對しては贅澤だと云つて斷られました。是等は何う云ふ樣にしたらよいものでせう。今日は篤と先生の御意見を伺つて參りたう存じます」と云ふことでした。人は現金であり、正直なもので、私の指導下に在つて、保育法の講義を聞いて居つた時には、話が少し平凡なことになると、碌に講義を聞かうともせず、初夏の微風に後れ毛なぶらせながら、いゝ心持ちさうに舟さへ漕いで居た人が、今は極めて、眞面目で、一生の浮沈、此一事にありと云つた形、相見て、大に笑つた事でしたが、併

し、眞劍な此新任保姆の奮鬪振りには私も、すつかり、感心させられました。大體に於て、誤りの無い保育方針を立て、枝葉の末節に拘泥せず、事の根幹に對して、全力を傾注しようとして居る處は、大に我意を得たりと云ふ所で、私は感服して仕舞ひました。夫れで、今後のAちやんの處置に對してはAちやんの長所を伸ばしてやることを主とし其得意の活動を滿足せしめ、其點に就いて、先生の優越を感得せしむると共に、其恩愛を感ぜしむる樣計劃す可きことを話したことでした。斯くして、Aちやんを安全に先生の手の中に擒り子にすることが出來れば、次にはAちやんを善良な仁者たらしむることも、決して難事でないことを話しました。

次に園長の干渉問題に就いては困りました。唯、常識的に妙な「悟り」を開いて、云はゞ僻見、我意と云ふ樣なものを振り廻はす人に對して、眞面目な議論は効き目もなければ役にも立たず、然りとて、然樣然らば、で詰らぬ意見に御追從ばかりして居ては、此方の腹の虫は兎に角、善良な子供が可哀想でならず、と云つて、一々楯突いて居たのでは結局は此方の首の問題になるかも知れず、是は中々困難な問題です。保育法の先生も、是を解決することは容易ではありません。併し、考へて見れば園長の干渉を如何に處置す可きかと云ふ問題は保育方法の講義の中にはありませんでした。是は保育法の對象として取扱ふ可きものではないので、此點に關して、新任保姆が行き詰りを感ずるのは誠に尤な事でした。問題は處世上の大きな問題で、實踐道德上の難問でした。換言すれば人格と人格との對立の問題でした。新任保姆の人格が大か、園長の人格が大か、つまりは大なる人格が小なる人格が包まれて仕舞ふ問題です。園長の我儘、横暴が烈しくて、資本家たる權力迄も使用して此方を虐げて掛るのでは、最早助かる術もありませんから、其時はあきらめて、引退がるより外仕方がないでせう。併し、其樣な人を若し此方の大人格で、感化することが出來るとしたら、頗る愉快なばかりでなく、社會に對し、世間に對し、功德の事ですから、直して遣りたいものですね。夫れには第一に、子供の世話に就いては、巨細共充分に氣を付けて、子供の世話は此人に任かして置けば、

心配は要らぬと云ふ安心を起させることゝ、も一つは父兄に充分に信用を得ることである。彼の先生は公平であり、親切であり、注意周到であり、何處に抜目もないと云ふことが徹底的に父兄の信用となれば、園長は最早保育上に就いて、何等の心配もしなくなり、從つて、つまらぬ干渉はなくなるでせう。保育上の主義とか、方針とか云ふことに就いては間違つて居ない限りは、聞き流して置けばよいので時には、寸鐵人を刺す底の簡單な言葉で、之を批評するもよいでせう。時には、ソクラテスの問答法に倣つて、園長の意見の矛盾を園長が自覺する樣質問を提出して見るのも善いでせう。尤も、此場合に於て、園長が其矛盾を自覺した樣だと思つたら、質問は餘り追窮してはいけませんが、斯樣にして行く中に、段々に保姆の人格の大にして高きものあるのに氣付いて、遂には敬服する樣になるでせう。と云ふ樣な意味を話しました。

此人は東京の某高等女學校を出た人ですが、確固な信仰を持ち、怜悧で、器用で、子供にも父兄にも充分、信用される値打のある人でした。多分、其幼稚園は適當に料理されて經營されて行くことゝ思つて居ます。

B新任保姆の告白

次にBと云ふ保姆は或る可なり大きな町の中央にある一私立幼稚園で子供の數が八十人ばかりの處へ參りました。先任の保姆が二人あり、そして、園長の妻君が一切の采配を揮つて居る處でした。其告白は左の通りでした。

私は赴任すると直に、大きい子供の一組三十人ばかりを受持つことになりました。子供は入園したてで、先生の私が、同樣の新米で、爲ることなすこと、面食ふことばかりで、閉口して居ります。子供はまだ中々附添の手を離れないものが數人あります。が併し、大體に於て、保育上には大した問題はありません。樂器も御蔭樣で、人並には出來るので仕事其ものは思つた程、困難はありませんが、困つたことは園長代理の奥さんの八釜しいことです。部屋の掃除や摩頓の仕方の八釜しいことは先づよいとして、便所の掃除、庭の隅々まで、附きまとつての指圖振りは、ほと〳〵閉口します。云はれずとも、相當に掃除の仕方位は心得て居る積りですが、ヤレ夫れでは雜巾のゆすぎ方が足り

ない。箒を其樣に使つては早く痛む。そんな掃き方では塵が立ち上つて舞つてばかり居る。水をそんなに使つては水道の料金が嵩む、と云ふ樣に夫れは〳〵大變な干渉振りです。夫れもマア善いとして、モツト私共のいやになることは「腰元女中」であるかの樣に、私共を奥さん自身の用事に使用することです。ヤレお天氣が良いから夜具をほして下さいとか引き出しを整理するから手傳つてとか、石鹸を採つて下さいとか、ハンケチを洗濯してとか、有らゆる用事に私共を使用するのです。それで、奥さんの云はくです。女中は僅か十圓で朝起きるから寢る迄働く。何十圓の月給を拂つて、五時間や六時間働いて貰つたのでは、迚も算盤にならぬと云ふことです。萬事が斯う云ふ遣り方ですから使ひ物でも持つて來る家の子供は、奥さんの歡迎することが非常なもので、見て居ても齒の浮く樣な世辭を云つて居ますが、然もない家の子供は頓と見向きもしません。或は子供の顏が汚れて居ると云つて、バケツに湯をとらせて、奥さん自身子供達の顏を拭いて遣つて居ましたが、例の特別待遇の二三の子供と自分自身の子供とだけは、必ずよく〳〵ゆすぎ立ての手拭で拭いて遣りますが、後の子供達は碌にゆすぎもしない手拭で、一時に數人も續けざまに拭いて仕舞ふのです。若し傳染病でもあつたら、早速、其傳播をたすける樣な行り方です。尤も此奥さんは高等小學校を出た限りで、無論、保姆の資格も何もない人です。斯樣な譯で奥さんの行り方と干渉振りには先任の人達も閉口して居る處でした。と云ふ譯でした。私立の幼稚園にはともすれば此樣な所があるもので、是に類する愚痴話を私は度々聞されて居ますから別に驚きはしませんが、教育の仕事の進歩して居る今時分にも、斯樣な事實が、然も、帝都を去ること遠からぬ立派な都市の中央にあるのを思つて、つく〳〵と教育內容を監督する機關の今少し整備せんことを祈らずには居られません。

元來、保姆の資格もない樣なものが、假令、代理とは云へ、幼稚園の仕事に口を出すと云ふことは遠慮す可きであります。私立の幼稚園には兎角、之に類することが行はれて居るところがまだ外に幾等もある樣ですが、何とか改める工夫はないものでせうか、誠に齒がゆい樣な感じがしま

す。嘗て、私の所に私立幼稚園設立の相談に來た人がありました。色々話して居る中に、誰が實際經營の任に當るかと云ふことを聞いて見ると自分の家内に行らせる積りだと云ふ。奥さんの資格はと聞くと何もないと云ふ。失禮ですがお教育の程度は？　と聞くと小學校限りだと云ふ。そこで、私は小學校長である其人に、嚴然として云つた。貴殿は多年教育に從事せられて教育事業の尊いことを存じないのか、教育の檢定と云ふものが伊達のものと思はれるのか人の教育を司る可き資格さへ無くして教育事業を經營することは、其は教育事業冒瀆では無いか、若し貴殿が眞面目な考へで幼稚園經營をなさる御積りならば先づ妻君の保姆資格を採られることが先決問題でせうと云つて遣つたことがありますが、此老小學長に類する樣な營利一點張りの幼稚園も隨分、世間には尠くないと見えます。昭和の今日然りとは呆きれた事と云はねばなりません。

フレーベル誕生百五十年記念講演會

時日　四月二十三日（土）午後一時半

場所　東京女子高等師範學校附屬幼稚園

講演　フレーベルの生れた家　倉橋惣三君

フレーベルに就て　ソフアヤ・アラベラ・アルウキン君

日本幼稚園協會

（詳細は卷頭第一頁廣告をごらん下さい）

人形をめぐる人々

水谷年惠子

「お別れ」

園長さんと子供達とのお別れの日が來ました。永い間、園長さんの可愛い子になつてゐた子供達が、もう今日限り、園長さんの兩手の中から、すつぽりと離れて方々の小學校へ連れて行かれてしまふのです。

子供達がお免狀を頂く時、園長さんは、どの位嬉しいかわからないお顏で、子供達を一人一人、「えらい」、「えらい。」とお褒めになりました。子供達が喜んで、

園長さん　ありがたう！　ありがたう！

と口々にお禮を言つて、皆で園長さんを取捲きました。するとにこ〳〵顏の園長さんの目から、ぽたり、ぽたりと涙が落ちて、笑つたまんま、園長さんは、

あーん、〳〵。あーん、あん、あん。

と泣出されました。子供達は園長さんの泣くのを見て、吃驚しました。園長さんは今まで一遍もお泣きになつた事なんか無かつたのですもの。

子供達は目をぱちくりさせて、園長さんのお顏を見上げて居ました。園長さんは兩手を目にあてゝ、其處へおしやがみになりました。一人の子供が、心配さうな顏付をして園長さんの背中をさすつて上げました。又一人の子供が小さい手で園長さんの濡れた頰を撫でて上げました。園長さんは、

えへ、えへ、へ、へ、へ。

と泣笑ひをして、立上つて兩手を目からお離しになりました。園長さんのお顏は、雨上りのお天たう樣の、ぴか〳〵光るお顏でした。子供達が、わあーつと囃立てると　園長さんは、

芽出度い、芽出度い。

と言つて、子供達の頭を、一人一人叮嚀にお撫でになりました。

「記念」

何處から運んで來たのか、子供達はそれは〳〵大きなお人形を、一人では抱いて歩けないので何人もかゝつて、そして大勢でぞろ〳〵と、園長さんの前へ連れて來ました。

黒い髪の毛のふさ〳〵した、お振袖のお人形で、誰でも一目見たら、きつと、

まあ！　可愛らしいわね！

と褒めずには居られないお人形でした。子供達の後の方に目を細くして喜んでゐた幼稚園の婆やが、

「園長樣、お子さん達が此のお人形を園長樣にお上げなさるさうでございますよ」。

と申しました。園長さんはびつくりして、

「ひえ！　此のお人形を？みなさんが？　わたくしに？下さいますつて？」

子供達が一齊に、

「さうです！　さうです！」

と答へると、

「まあ、有がたう、有がたう、有がたう、有がたう。」

「可愛いわね！　嬉しいはね！　有難いわね！」

何遍も〳〵園長さんは同じ事を仰有つて、お人形を、目も口も融けてしまふ笑顔で眺めて、

「おほ、おほ、おほ……」

とお喜びになりました。

子供達は皆でぱち〳〵手をたゝいて、

園長さんはママさんだ、

園長さんは母さまだ、

園長さんは嬉しいな、

赤ちゃん產れてうれしいな。

と囃立てました。

園長さんは、お人形を大じさうにかゝへて、子守唄のやうなのをお歌ひになりました。

この子いとし子、

巣立ちのかたみ、
皆のたましい、
この子にこもる。
この子いとし子、
わたしの寶。

「よろこび」

記念のお人形を迎へて、園長さんのおうちがぱつとあかるくなりました。そして賑かになりました。それから花が匂ふやうに氣持が好くなりました。園長さんのお顏も皺が伸びて若々しくなりました。眉も額も晴々としました。

お人形を抱いた園長さんを載せて、そろり〳〵と挽いて來た俥やは、いつもより澤山おあしを戴いて、

「御馳走樣で御座いました。お人形さんをおだいじに。」

と言つて歸つて行きました。お人形を入れて置く大きな箱も有るので、座敷まで運入れるのに、お隣のお婆さんまで來てお手傳をなさいました。

お人形を立たせる臺の上に立たせて、座敷の眞中のテーブルの上に据ゑると、又園長さんのお顏は笑みこぼれましたお隣のお婆さんは　あまりお人形が可愛らしいので、物が言へず、笑つたのか、泣いたのかわからないやうなお顏で眺めていらつしやいました。

お隣から園長さんのお仲好の坊ちやんも飛んで來ました。その叔母さんも、お母さんも見にいらつしやいました。遠い田舍からお隣へ來ていらつしやるお客樣のご老人までが見物にいらつしやいました。

「まるで生きてゐるやうね。」

「今にも何か口をきゝさうぢやありませんか。」

「あら〳〵、睫毛がありますよ。」

「可愛いいお手々　、爪もあるわ、爪に紅さしてゐますのね。」

「あつ足袋穿いてる。懷から簪のびら〳〵が下つてるよ。」

「それハコセコマて言ふのよ、緋鹿の子のしよい揚に白紐の帶しめで、大へんなお仕度ね。」

「不可思議」

此の人形は誰が作つたのだらう、此の眉を描き、此の眼

園長さんは、今此のやうに呼掛けて、男にも女にも子供にも年寄にも、此の人形が見て貰ひたいのでせう。訪ねて來る程の人が、どんなに多忙な人であつても、園長さんは

「一寸、一分間でいゝから、是非、人形を見てやつて下さいな。」

と勸めずにはおかれません。すると、どの人もどの人も、皆申合せたやうに、急ににこ〳〵して、

「へえ、お人形、では一寸。」

と上り込んで、園長さんの「不可思議」を見せておもらひになります。

「をしへ」

土で作つた人形でさへ、
その人形を廻る慶びは大きいものだ。
血をわけ、肉をわけて產んだ我が子、
造物主の靈を宿して產れた我が子、
子を持つた慶びはどのやうにあらうぞ。
その慶びは天にも滿ち、
を開かせ、此の鼻を作つて、唇をそつとつぼませたのは誰だらう。
咲匂ふ花の袂を重ね着させて、紅い錦の帶締めさせたのは誰なのだらう。
園長さんの心の中には、もう毎日毎晩、お人形を思ふ思ひが泉のやうに湧いてゐます。
來りて見よ、
此處に不可思議あり。
泣く者は笑ひ、
憤る者は和らがむ。
いさかふ者は相倚りて手を握り、
惡みあふ者は惡しみの心を棄てむ。
痛みは去り、
苦しみはやがて癒えむ。
悲哀の谷の百合、
死の蔭の火影。
來りて見よ、
此處に不可思議あり。

地にも漲るであらう。
潮も慶びの聲を揚げ、
山々も慶びに搖れ、
日も月もその慶びに輝くであらう。
土で作つた人形の
尊いをしへ、
「人の子ををしへる者よ、」
その慶びを知れ。
と。
だあれも居ない時、お人形の前で、
ああ！　あ！
と、感歎の聲を放つた園長さんの眼には美しい涙が一ぱい光つてゐました。

お茶の水人形座俳優諸氏がこの度彌生狂言『七匹の小山羊』上演に際して座元兼舞臺監督倉橋惣三右衛門氏より愈々その技熟せりとて名題にしていたゞきました左に御披露に及びます

お目見得

初代　ふじ乃助　こと　菊池ふじの
ゐ可吉　こと　徳久　孝子
はゆめ　こと　村上　露子
せの八　こと　小島　その

以上

童話「毬子さんとヒヤシンス」

高島　巖

毬子さんは、お花が大好きでした。ですから、毬子さんのお父さまは、毬子さんが、ちよつとでもいい事をしたとか、また、お誕生とかクリスマスとかいふお祝ひの時には、かならず、なにかしら、綺麗なお花を買つて下さいました。

×

ある時のこと、それは丁度三月のなかごろのことでした。あたたかい春の風が、どこからともなく流れて來る、なんとも云へないいゝ氣持の日でした。お父さまは、毬子さんが、おままごとのお道具や、そのほかのおもちやを大變綺麗に自分でおかたづけをしたといふので、そのご褒美に、ヒヤシンスを一鉢買つて來て下さいました。

「まあ、綺麗な色、それに隨分いいにほひね、お父さま」

「うむ、いいにほひだらう。これはね、お前が、おままごとのお道具や、おもちやを、綺麗に自分でおかたづけをしたご褒美だよ。大事にして出來る丈ながく咲かせておやり」

「ええ、いいわ。お父さま、ヒヤシンス、お水、好きかしら？」

「うむ、好きだよ。色々な花のなかでも、特別たくさん、水を飲むらしいよ。ほうら、ごらん、葉つぱでも花でも、ほかの花よりはずつとふとつてるだらう」

「ええ、ええ、さうだわ、さうだわ。それぢやあたし、毎日水をやることにするわ」

「さうだ、なまけちやだめだよ。一日なまけると、それだけ、花のいのちが短くなるんだからね」

かうして、毎日毎日、毬子さんに水を飲ませていただくので、ヒヤシンスは、だんだん丈夫になり、始めのうちは、下の方だけ咲いてゐた花が、だんだんだんだん上の方まで咲いて來て、一週間ほど後には、すつかり咲いて、立派な

立派なヒヤシンスになりました。
にほひも、だんだんつよくなつて來ました。
毬子さんが、おそとからお家のなかへ入つて來ますと、ヒヤシンスのにほひは、お玄關まで、毬子さんを迎へに出て呉れます。
「まあ、いいにほひ」
毬子さんは、大急ぎで、お部屋へとんで來て、ヒヤシンスの鉢を抱きあげるのでした。

×

ところが、ある日のこと、それは四月の一日で、今日から幼稚園が始まる日でした。
毬子さんは、新しいお洋服を着て、新しいエプロンをかけました。新しいお帽子に、新しいお靴。
毬子さんは、その新しいお帽子や新しいお靴に氣をとられて、その日はとうとう、ヒヤシンスに水をやるのを忘れたまま、幼稚園へ行つてしまひました。
式が濟みました。お部屋がきまりました。
さあ、今日はこれでおしまひといふことになつて、幼稚園のご門を出やうとした時、
「あツ、さうだ。あたしけふ、ヒヤシンスに水をやるのを忘れて來たわ」
と、氣がつきましたが、もう間にあひません。大急ぎでお家へかへつて來ましたが、その日は、ヒヤシンスのにほひは、お玄關まで迎へに出て呉れませんでした。
「わるかつたわ、わるかつたわ」
ところのなかで一生懸命にお詫びをしながら、お部屋のなかへ入つて來ますと、まあ、どうでせう、けさまであんなにしつかりしてゐたヒヤシンスが、すつかりしなびて、おくびをだらーんとたれてゐるのです。
毬子さんは、もう、濟まなくて濟まなくて仕方がありません。早速お水をもつて來て、たくさんたくさん飲ませましたが、ヒヤシンスは、とうとうおくびをあげて呉れませんでした。
あしたになつても、あさつてになつても、ヒヤシンスは、もとの通りにはなつて呉れません。そのうちに、葉つぱの先が赤くなりました。花がしほれて、ぽろぽろと落ち始め

ました。死んでしまつたのです。

ほんとうは、水を飲まなかつたためばかりでなく、もう、枯れる時が來てゐたのですが、毬子さんには、それが、自分のせいのやうに思へて仕方がないのです。

「ごめんなさいね」

「ごめんなさいね」

一生懸命にお詫びをしながら、毬子さんはその花と葉つばをすてなければなりませんでした。

毬子さんが、鉢の土を地面へあけた時、なんだか丸いものが二つ、ころころつと、ころがり出ました。

毬子さんはなにげなくそれをひろつて見ると、それはヒヤシンスのたねでした。

×

やつでの下に穴が掘られました。

そして、その穴のなかにヒヤシンスのたねが二つ、その上に土がのせられました。

×

夏が來ました。そして秋。

秋が過ぎました。そして冬。

あくる年の二月、冬のあひだ中一度も降らなかつた雪が、めづらしく二月になつて始めて降りました。

二三日たつと、お庭につもつた雪がとけて、眞黑な土が顔を出しました。

その時です。

毬子さんが、お縁側からひよいつとお顔を出しますと、

「あらツ、お父さま、お父さま、お父さま」

「なんだい　朝からそんな大きな聲を出して、びつくりするぢあないか」

「いいえ、お父さま。芽が出たのよ」

「なに？　芽が？」

「ほら、ほら、ほら」

お父さまは、毬子さんの指のさきを傳つて見ますと、まあそこには、可愛らしい、眞青なヒヤシンスの芽が、眞黑な土のなかからちよこんと顔を出してゐるのです。

「ほほう、ヒヤシンスだな、どれ、どれ」

毬子さんは、ながいあひだ　わるいわるいと思つてゐた、

そのヒヤシンスが、自分のお間違ひをゆるして、もう一度出て呉れたのだと思ふと、もう、うれしくてうれしくて仕方がありません。

「ありがたう、ありがたう、こんどこそ大事にしてあげるわね、去年のことはゆるしてね、ゆるしてね」

毬子さんのひとり言を、お父さまは、笑ひながら默つて聞いておいでになりました。

×

ところが、悲しい事が起りました。其可愛らしいヒヤシンスの芽が、お隣りのにはとりに食べられてしまつたのです。

さあ、毬子さんは、どうしてよいかわかりません。少しばかり殘つてゐる葉つぱの爲に、毬子さんは、背の高い垣根を作りました。そのお蔭で殘つた葉つぱだけは、毎日毎日、少しづつ大きく育つて行きましたが、眞中の柔かい芽がすつかり食べられてゐるので、まるで、こわれたおどびんのくちのやうな變な恰好でした。

それでも毬子さんは一生懸命です。

時にやつて來るにはとりを、一生懸命に追つては、ヒヤシンスをかばつてやりました。

×

また、雪が降りました。そして、その雪がとけた時、

「あらツ、お父さま、お父さま、お父さま」

「なんだい、また大きな聲を出して」

「いいえ、出て來たのよ。ほら」

「出て來た？　なにが？」

「ほら、ほら、ほら」

「ほほう、芽だな、どれ、どれ」

古い、少しばかり大きくなつた葉つぱのなかから、柔かい、小さな、新しい芽がちよこんと出てゐました。

×

新しい芽は、古い葉つぱにまもられて、だんだん、大きくなりました。

毬子さんは、にはとりを追ふ役目を、やめませんでした。

そして、三月のなかごろ、

また、ヒヤシンスは、綺麗な色と、いいにほいをもつて毬子さんのお部屋をかざつて呉れました。

切拔折紙の動物

山形　寛

切拔折紙の動物の作り方を御紹介します。

これは別に新しい方法ではなく、今ではだいぶ方々で行はれて居り、子供雜誌などにも時々散見しますし、キヤラメルのおまけなどにもついて居るやうですが、幼稚園手技の材料としても面白いものですから、お試しを願ひます。

これは相當困難な所もありますが、そこは先生が手傳つて上げて下さい。子供は相當面白がつてやります。そして皆でいろ〳〵な動物を作つて動物園を作らせて下さい。

此處にあげたものは、四つだけですが、大體模式的なものをあげて置きましたから、あとは之に準じて作らせて下さい。どんな動物でも譯なく出來ます。

前おきはこれ位にして、作り方を説明します。

材料は圖に示した位の大さのものならば、あまり厚くない羅紗紙が最もよろしい。もつとも鶴のやうな白いものは薄手の畫用紙を使はなければなりません。大さを圖の二倍位にするならば少し厚い紙の方がしつかり出來てよろしいです。なるべくならば二倍位の大さに作らせたいのです。

大體の方法は、圖を謄寫版刷りにして與へ、それから作らせるのです。かう云ふ下圖の形と、出來上りの形とが違ふものは、子供に下圖をかゝせることは無理です。謄寫版の原紙を畫くには、この挿圖を直接寫して下さればよいのです。もつともこれより大きく作らせるには、別に下圖を畫いていただかなければなりません。次に一つ一つの作り方をお話ししませう。

一、鶴

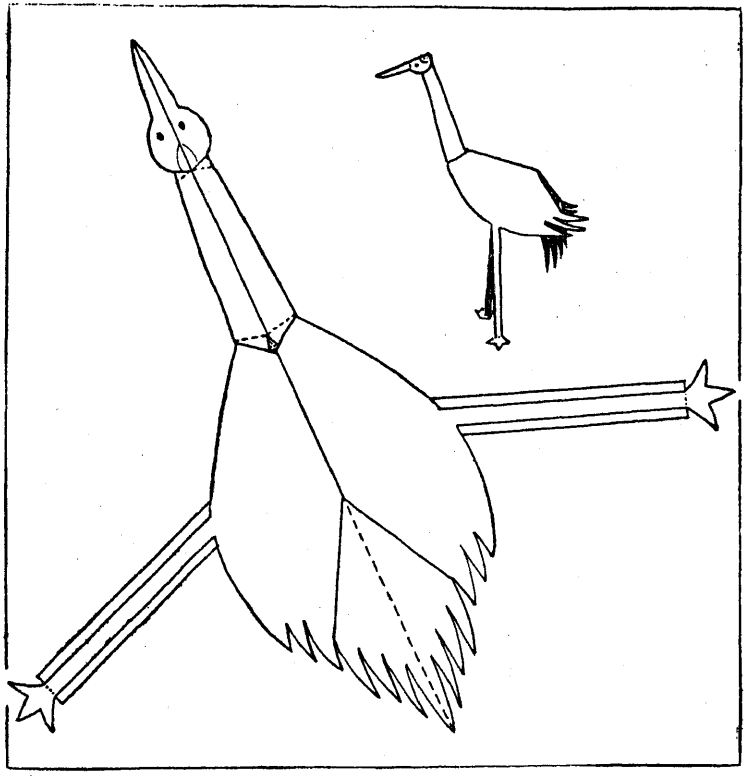
1、圖のやうな下圖を謄寫刷にして、外廓線に沿つて鋏で切ります。

2、脚の所は、中の線の所から裏側に折つて糊をつけて

三枚を貼り重ねます。これは中央部だけの幅に初めから切つてしまつてもよいのですが、それでは出來上つた時にうまく立ちません。

4、次に中央の線から二つに折ります。

4、次に斜に畫いてある實線及び破線の所から折つて折目をつけます。小さな部分の折目は篦のやうなもので筋をつけて折るとよろしい。折目は裏表に何度か折り返して、充分にくせをつけて置くのです。



5、頸のつけ根の所に小さい點々を打つた所は、切りとるのです。

6、以上が出來たならば、右上にある出來上り、圖のやうに折るのです。圖に實線で示した折目は表に出る折目で、破線で示した折目は、內側に折込まれる折目です。

7、嘴、丹頂の赤、眼羽等をクレオンで畫きます。

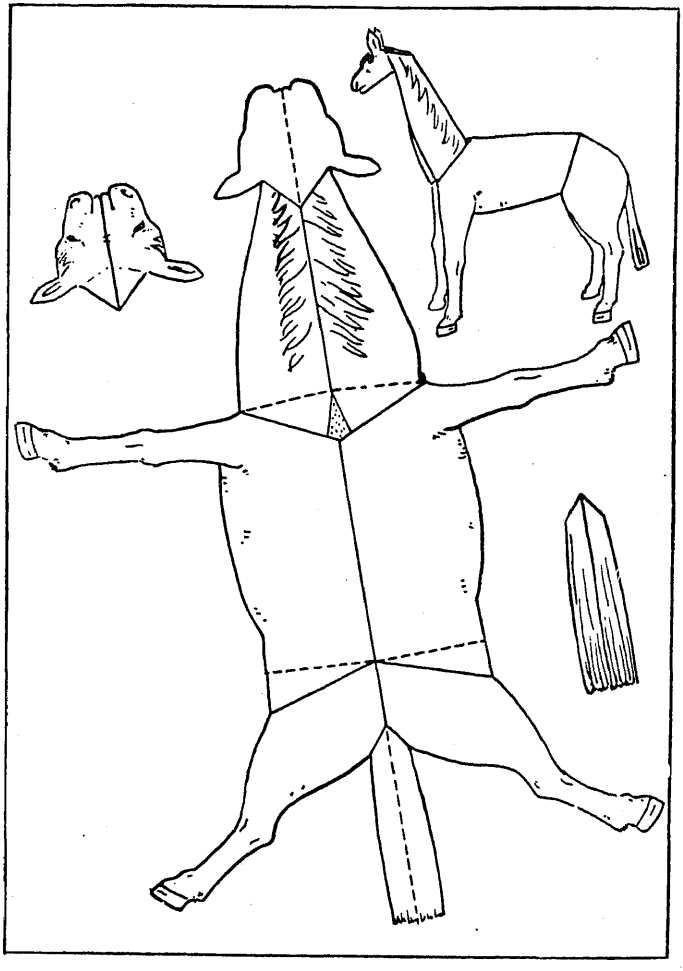
8、小さな畫用紙の臺紙の上に、脚の先に糊をつけて貼りつけます。臺紙に貼りつけな

いと立ちません。

9、尙ほ折目が開いて來て、形がくづれるようならば、所々糊をつけて止めるがよろしい。

二、馬

大體は鶴のやり方と同じですから、異つて居る所だけ申します。これは頭と尾とは、出來上つた時に裏が出るのです。ですから初めに顏や尾は印刷して置いてもだめになりますから、圖にはたてがみなども畫いてありますけれども、子供等にやらせる場合には、外側の線と折目の線だけを印刷して與へ、あとでそこらは子供にクレヨンで畫かせて下さい。



馬は黃色の羅紗紙に印刷してやるとよろしい。

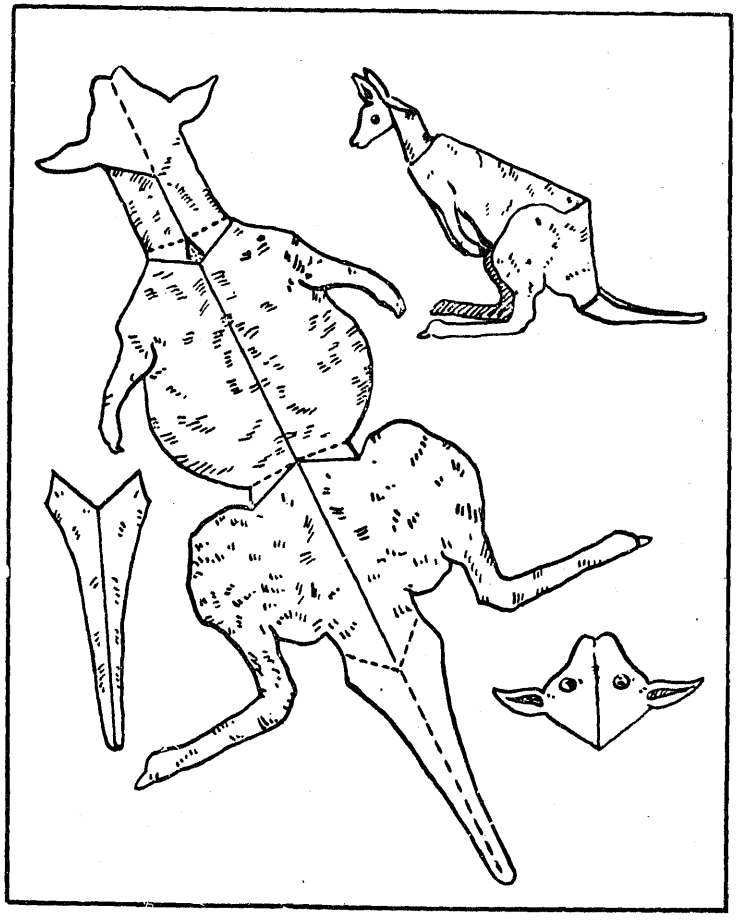
三、カンガール

これは馬のやり方と殆ど同じです。只

後脚が胴の所で重なつて行く工合が少しちがひます。そして後脚と尾とで立つやうにするのですから、兩者の工合を右上に畫いてある仕上り圖のやうにして下さい。

四　熊

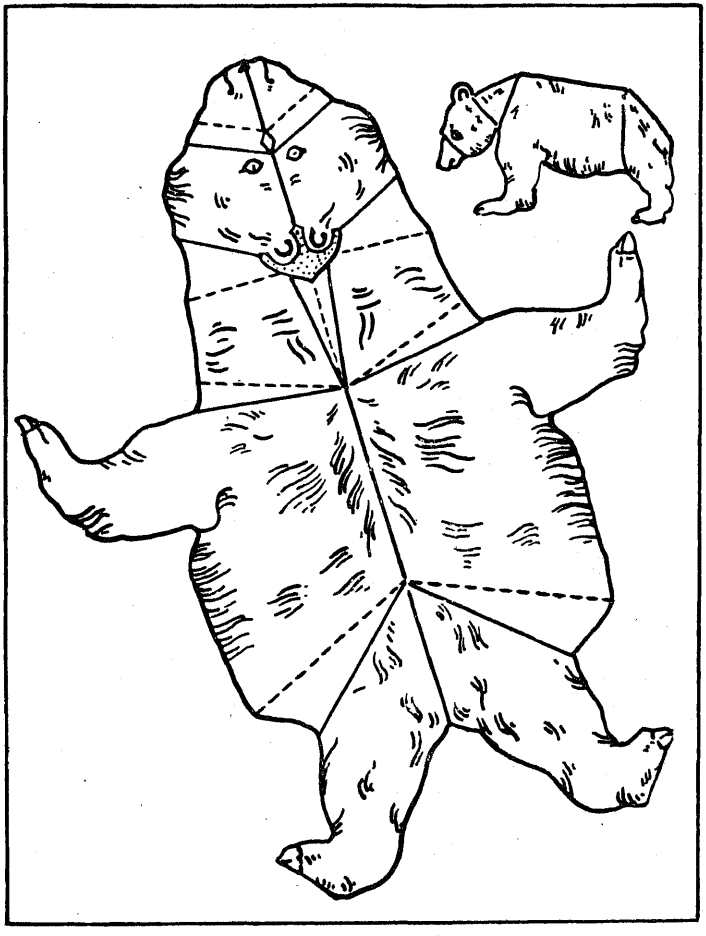
これは全部紙の表の方ばかりが出るやり方です。そ



して顔に一つ疊み込んだ所をつける方法や、耳をつける方法、頸の上部に一つ疊み込みをつける方法などが前のものと違つて居る所で、あとは大した違ひはありませんから、圖を見て作つて下さい。

紙だけで作る動物のやり

方としては、これ等は相當手のこんだ面白い方法です。かう云ふものは、あまり一つの方法ばかりをやらせるよりも、いろ〳〵な方法を混ぜてやらせる方がよいのです。



保育そのときく

倉橋生

一、新入園兒は、はじめの一二ケ月、どんなことがあつても、決して叱らぬこと。なじみにならぬ前に叱る資格はない。

一、わざとらしい御機嫌とりをせぬこと。眞實の他に人間を親ます途はない。いくら幼い子どもでも。

一、一齊に集合させることは、出來るだけしないこと。新兵だつて各個教練から始まる。況んや、教練にあらざる教育に於ておや。

「皆さん」この位、新入園兒にとつて異樣、奇怪な言葉はあるまい。そんな言葉を家庭で聞いたことは、誰れだつて無いのだから、奇怪に聞へないにしても、空虛にしか響くまい。

一、一人々々の健康狀態に就て、家庭から詳細に聞いて置く必要がある。胃腸が弱くないか、心臟が弱くないか、氣管が弱くないか——心性に適する保育は初めの中は相當六かしいとしても、身性に不適當な取扱ひ方位は容易に避けられる筈だ。

一、一寸見たところ、どんな子でも、初めの印象で餘りはつきりした批判を下してはならない。親達に對しても。

一、餘り人ずきのしないやうな子から、先きに親しむやう心かけること。可愛いらしい子は、誰れでも可愛がれる。

花壇並に花壇用草花年中行事

——（四　月）——

日比谷公園花壇掛　富本光郎

球根類の植付

先月より今月にかけて春植球根植付の好期であるが、次にその代表的なものを擧げ植付適期植付方法等を述べて見ると次の如きものである。

ダリヤ　先月下旬頃より今月中旬頃迄が植付の適期であるが、發芽してからでなければ分球出來ないものであるから、貯藏所よりとり出して一旦暖かい場所に假植して發芽せしめる期間他の球根類より定植が後れる事となる。從つて植付は四月中旬頃になるが早く開花せしむるには三月上旬頃より溫室、フレーム等に入れて發芽を促進せしめ三月下旬に植付けるといふ風に取扱はなければならない。

土質は極端な粘土砂土等でない限り日當りのよい處ならばどんな場所でもよく出來るので豫め植場所は徑一尺深一尺位の穴を掘り在來の土に肥土、堆肥、油粕等を混じ十分肥沃なる樣こしらへておく。

種類としては在來のカクタス、ピオニー、デコラチーブ、ボンボン種等勿論數株宛欲しいものではあるが盛花、投入用等には小さい花の咲く花首の强いシングル、コラレツト等の方が日本室向に面白いものである。

植込の深さは三、四寸一ケ所に一球一芽として横にしておく方がよく、株間は種類にもよるが二尺五寸—三尺が適當である。

カンナ　ダリヤ同樣三月下旬より植付好期で、昨年

の大株より適當の大きさに分球し深さ三寸間隔六七寸に植込む。色分として相當大塊に植付むがよく、丈の高くなるものであるから土質は少し重い方が徒に高くなるのを抑へるに効果がある。

水揚が悪いので切花に適せず花壇專用のものであるが、雄大なる葉と鮮麗な色彩の花は夏の花の王者として大花壇廣い校庭等にも最もその威力を發揮する。

次に比較的安價にして優良なる品種を擧げておく。

赤色系統—アメリカン、レツドクロス（青葉）　一球　一五錢位

ノニミス　（赤葉）　同　一〇　同

ウインツアーグロドゼル

（青葉）　同　一五　同

桃色　同—オリンピツク　（同）　同　二〇　同

シヤーフエンスタイン

（同）　同　一五　同

黄色　同—ゴールデンイーグル

（同）　同　一二　同

エロー、キング、ハーバート

（同）　同　一六　同

白色　同—ニーレカ　（同）　同　二〇　同

グラヂオラス　夏の切花として市場などに於ても獨占的の位置を占むるもので又花壇に植えて眺むるによく、追年益々改良され新品種が續出しつゝある。

なるべく早く植付けて土用前に開花せしめた方が花も大きく色も鮮かなので、暖地では二月頃から植込んでよく土質は粘質壤土が適し植込の深さ四五寸（乾燥を嫌ふので球の大きさの割合には深い樣であるが）間隔三寸位が適當である。

然し此者は植付の時期によつて開花の時期を調節することが出來るので遲く植込めばそれだけ後れて立派によく開花するものである　早く植えたものよりは多少は劣るが）五月頃に植えても決して差支へないものである。

左に優良なる品種を擧げておく。

赤色系統—ドクター、エフ、イー、ベンネツト

（波狀瓣種）　一球　廿五錢位

スカレット、プリンセプス
（平瓣種）同　五　同
レツドエンペラー
（　同　）同　六　同

桃色　同—ミセス、ション、アール、ウオツシン
（波狀　同）同　廿五　同
ミセス、フランク　ペンドルトン
（平　同　同　一〇　同

黃色　同—ゴールデン、フリルス
（波狀　同）同　一二　同
シンワーベン（平　同）一球　五　同

白色　同—アパロン　（波狀　同）同　一二　同
ニーロープ（平　同）同　五　同

紫色　同—オラン　（波狀　同）凹　三五　同
ドクター、ジャツソン
（平　同）同　一五　同

睡　蓮　これは水の中のものであるが根莖又は球莖を有し矢張球根植物に屬するものである。

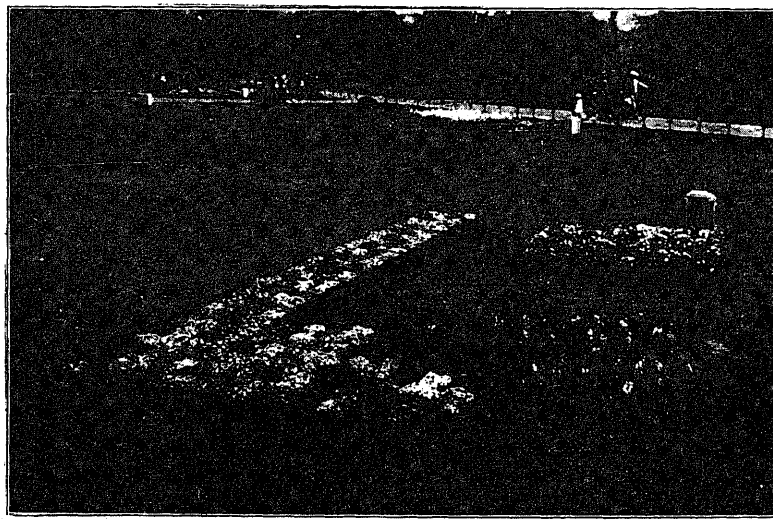
植付は三月中旬より四月中旬まで位が適期で泥のある池ならば地植とした方がよいがコンクリート造りの池或は大きな支那鉢等には別に直徑一尺位の鉢作りとして入れておくのが普通で水の深さは一尺五寸が適當である。

鉢植とする場合は重い荒木田土が最もよく強く壓して堅く植込み肥料は油粕、魚肥、豆粕等が用ひられるが他の水栽植物同樣魚肥が最も良好とされてゐる。

萬人向の良種としてはニュートン（赤、耐冬性）アトラクション　濃紅、耐冬性）チンーベローザ（白、耐冬性）オドラタ、サルフエリア（黃、耐冬性）ウイリアム、ストーレ（空、熱帶性　オマラナ（桃熱帶性夜開種）等で、熱帶性といふのは東京附近にては冬季溫室のタンク內等に保護してやらねばならぬ種類である。

此外徑五、六寸金魚鉢に土を少し入れて作り得る姫睡蓮も又面白いものである。

此外春植球根としてアマリリス、アガパンサス、クリナム、シンシヤ、モントプレチヤ、リチヤーデイア、チウベ



現代の花壇

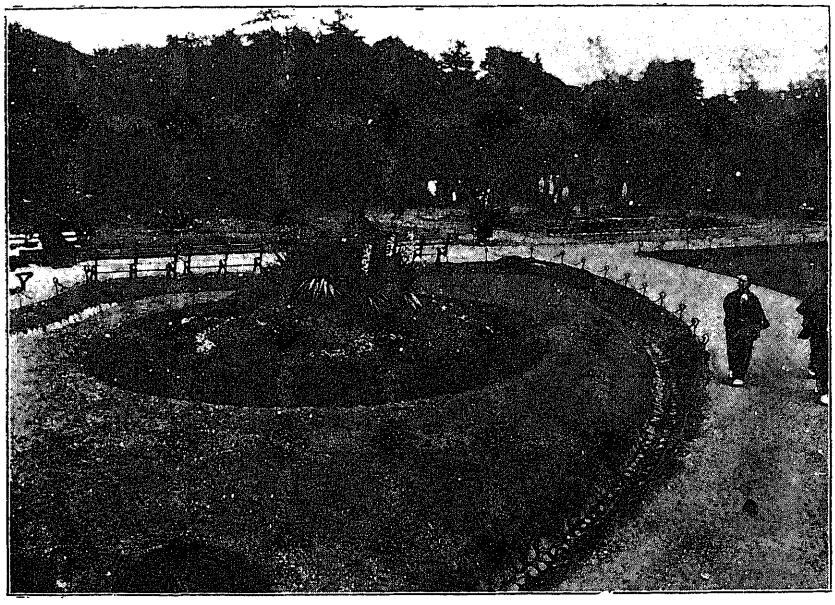
ローズ、ゼフイランサス、等があるが總て今植込んでよく栽培法はグリヤ、カンナ、グラヂオラス等と略同樣である。

花壇の植付

花壇の植付については、先月號にて今月少し詳しく書く樣記しておいたが、筆者今大多忙の爲に十分に書く暇がなく甚だ申譯ないことではあるが簡單に花壇の設計要旨等を述べるだけで御勘辨願ひ度い。

花壇の設計　花壇を設置すべき場所は其庭に於て最も適切なる箇所即ち是非必要なる所にのみ設けるべきで、只花壇を欲しいために出鱈目の所に獨立的にこしらへたのでは却つてその庭全體の風致を全然壞してしまふ事になる。而して適當の場所に設ける場合、その形式は庭全體にぴつたりと調和する樣設計する事が極めて大切である。

而してその形式模樣は近代建築或は服裝等に見る如く科學的にも精神的にも又經濟的にも機械文明の影響を受けたる合目的合理的の美しさ、即ち單純にして明快組織的なものでなければならぬ。從つて線の單純にして花の量的存在



在來の花壇

を根據としたものであつて、在來形式的のもの――唐草模樣波形模樣等――には現代人は美的感情を起さなくなつてゐるといふ事を常に念頭において現代精神を完全にとり入れた設計をなすべきである。

色　同種色配合、反對色配合、極色配合等これは設計と同時に起ることであつて、此處に記するを省くが、配色法を知らなければ花の配置が全然出來ないことになるから十分の研究を積まなければならない。

花壇用草花　如何なる形の花壇に植付けるとしても、主として整然たる形となる色彩のはつきりせるものを選び、多種類のものを株數少し宛よりは花壇用として優良なものを少種選んで株數を多く用意しておく方が、設計の要旨に適ふ植込が出來る譯である。

花壇の植付　設計圖の通り正確に繩張りし石灰等にて土の上にはつきりと模樣を畫きそれに從つて植込んで行くのである。

其他の作業

一、先月下旬に播き後れた草花の種子は是非共今月中旬頃までに播きつける樣にする。

一、宿根草の株分移植等も、芽のなるべく伸びない中に大急ぎでやつておく。

一、大菊の芽分、又懸崖菊中菊等は小鉢に定植する等、色々忙がしい作業があるが、これは特種のものなのでこゝでは省くことにする。洋式花壇などでは小菊丈低く圓くこしらへたものが最も用途の廣いものである。

一、下旬頃には牡丹、スヰトピー等が可成伸長して來るからなるべく早へ支柱を立てゝやる。

第六回乳幼兒愛護週間

全國的事實として廣く普及せられてゐる乳幼兒愛護週間は本年も五月二日より八日まで行はれる。年々盛に行はれ來つてゐるが、本年も亦大に意義あらしめたい。特に本年は此の運動全體に對し、宮內省より東京市及其近接町內の貧困家庭の乳兒に對し牛乳を下賜せられる由である。

園藝暦（四月卯月）

大岩金

氣節
清明　五日頃
土用　十八日頃
穀雨　廿一日頃

觀賞

草花類では前月に引續き秋植の球根類が日増しに美しさを増してきます。その外秋播秋植の草花類も早いものから順次咲きほこつて自ら身も心も畑に引き出されるものであります。

こげつくやうな暑さでないこの日當の下に丹精こめた數々の草花を心ゆくまで眺めてやりたいものです。

即ち櫻草類、シネラリア、三色菫、ヒナキク、金盞花、美女櫻などは草花の主なものであり、沈丁花、蓮翹、藤、海棠、櫻、椿などは木物の主なもの、野には、スミレ、タンポ、、サギゴケ、レンゲなど野趣に富んだものが數々人まち顏に咲き亂れて居ります。

仕事

一、播種

草花類にありましては前月に引續き春播及び春植のものを播種するのであります。（便覽參照）

蔬菜類では苣蒿、恭菜、萵苣、紫蘇、ビート、廿日大根、絲瓜、蕃舍、菜豆、落花生、トウモロコシ等播種するのであります。

その外里芋その他の薯蕷の類もこの切挿植するのであります。

二、移植及び定植

草花類では前月にまだ移植してないものの急を要するものから順次して參ります。そしてあまり伸びすぎて居りますものなどは一度心をとめて上にばかり伸ばさないで側芽を出させて株を張らせる事も必要であります。移植を終へて定植してよいものは是も夫々の場所に植ゑ出して觀賞に供しませう。その他鉢植として地に埋めてあるものやフレーム内に入れてありますものなども適宜取り出して鉢を綺麗に洗つてやらなければなりません。

次にダーリヤにありましてはかねて假植してありますものが芽が出かけて居りませうから　を掘り出して一球に芽が一つ以上つくやうに丁寧に芽分して日當のよい場所に植ゑ付けを致します。

植ゑ付けの注意

イ、日照のよい所を選ぶこと

ロ、植穴に基肥を入れ込むこと

ハ、植ゑ込むとき、直ちに球の側に支柱を立てておくこと、後になつては球につき差す心配がある

カンナは假植の必要なく直ぐに芽分して略ダーリヤと同樣の注意で植ゑ付けます。是には支柱も不要でありますから一層簡單なわけであります。又芽數も一株一芽に止めず數個つけて芽分すればよいのであります。

堪冬性の睡蓮も　鉢の水をきつて落葉や藻などで霜除してありますものを取り除き株の張つて居りますものは掘り上げて芽分けをして新に肥土を入れて植ゑ付けます。かくて清水を入れ水の汚れます中はしばらくとり替へるやうに致します。

三、支柱立その他

スキートピーや豌豆、トマトなど蔓の伸びるにつれて支柱を立てゝやらなければなりません。同時に不要な側芽は絶えずつみとりませんと枝がこみ合つて、結果が惡くなります。

込み合つた芽をつむ事は垣根の蔓ばらにも行はなければなりません。秋末大剪定はしてありますものの、まだ今春になつて意外に込み合つてくるのが常でありますから思ひきり少なくしておきませんと害蟲にも侵される事が多くな

ります。

四、除草、灌水、施肥

是等は常に注意して適宜行ふべきであります。

五、害蟲驅除

草花、蔬菜いづれにもつき易いのは蚜蟲であります。是には害蟲菊石石鹸合劑又はデリス石鹸液を使用致します。

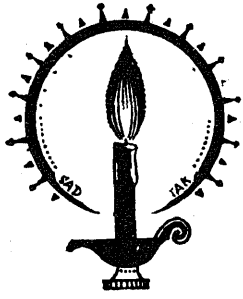
次に多い毛蟲類にありましては一時も早く見つけ出して巣の中からはひ出ないうちに燒きつくす事であり、一度散じては砒酸鉛の撒布をしなければなりません。是が使用に當りましては晴天無風の時を選び又葉の全面が濕ふやうに噴霧器で撒布しなければなりません。

六、その他

イ、苺の敷藁をすること。

ロ、芝の植付けの好季である事。

ハ、庭木類の移植も好季である事などであります。



じどうしや

土川五郎

はしる……全生右向をなし一歩前へ出づる時兩手を前に掌を向き合せて肩の幅に平らに出し直ちに兩肱を兩側後方に引き又指先より次第に上へあげつゝ前に平らに伸ばす

はしる……一歩前へ前の如く兩手を大きくまはす

じどうしや……四歩前進する時兩手を前の如く併し小さき圓をかきて一廻轉す

はしる……同じくして三歩前進す

ブ　ウ……兩手を前にハンドルを持てる如くして一歩前へ進むとき左手少し前へ右手を少しく引く

ブ　ウ……一歩前進右手前左手を少しく引く

な　ら……一歩前進兩手前の如くする

し　て……一歩前進兩手前の如くす

じどうしやはしる……兩手前にして動かさずに七歩進む

てつぱう……全生內方を向き左手を左上にあげ上體を左に傾け體重を左足に托し右足は右へのばし顏を右方に向けて右食指を左手の處より右方へ迅速に送る

だまの……右食指を左手の方へかへす

やうに　：再び右食指を右へ送り直ちにかへす

も　う……拍手一回右足に體重を移して兩手を左右に開く

いつちやつ……右食指にて右方を指す

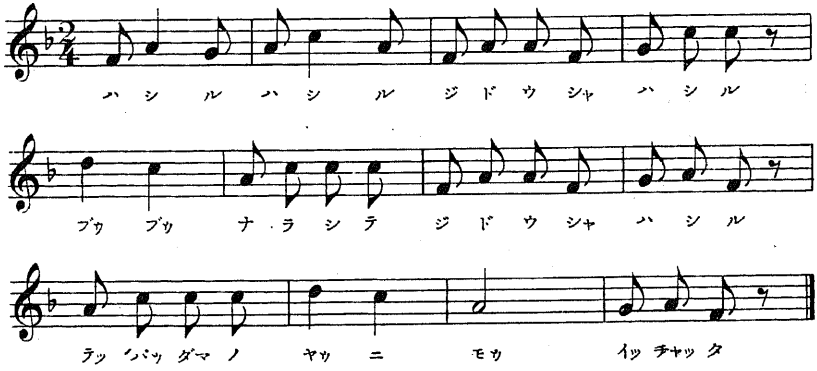
た……右手を少しく右上へ左手は左下方に十分に伸ばし兩手先を開き右掌は右に向く

まりなげ

一、まりな……右手を右側より體前下方にまはし更に右掌上にして投げる用意をなす
げ……にて右足にて床を打つ時右手を胸前に迅速にあげて上を見る右手は胸の上部に止めて掌は平らに上を向く
まりなげ……同じくす
じょう……體前にて兩掌を丸く合せ
ず　に……左手は平らに前に出し掌下にして)右足を引き右手を右後ろにまはし肱を曲げて手先を右肩の後ろに毬を持てる如くす
左足は膝を曲げて右足の前へあぐ
なげよ……左足を前にふみ下ろす時左手を後ろに右手を前に掌を立て前に向ける
投げつける如くす
右足は後方にはね上ぐ
おちると……右足を後ろに下ろして上體を前に屈す
まりは……足踏二回兩手を前に掌を向き合せて兩手を交互に上下すること二回
いたいと……拍手一回右足一歩右へ兩膝を十分に屈し上體を右に傾け兩手を左右に開き下を見る
はねる……其まゝ右足にて二回とぶ
二、まりなげまりなげ……前に同じ
じょう……跳んで兩足を左右に開く
ず　に……兩手を兩股の上におく
うけよ……踵を上げ直ちに下ろす時兩手を體前下方に毬を受ける如く兩掌を丸く合はせ上體を少し前に傾かしむ　顔は正面に向く
おちるとまりは……前に同じ
いやだと……右食指を出し他指を握れる右手を體前にて右より下、下より左、左より上へと四回廻はしつゝ左へ四歩横に走る
にげる……右手を尙一回大きくまはして左下を指す時左足を左へ一歩出す

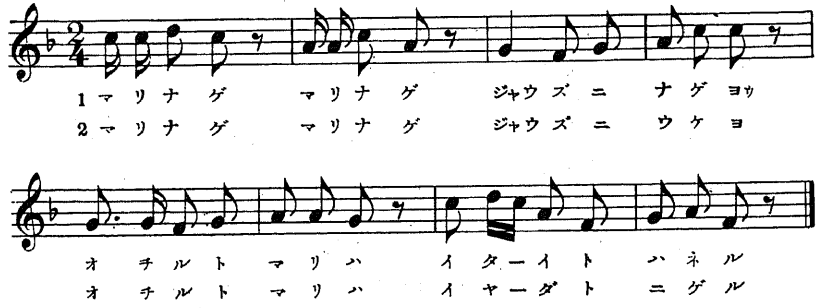
ジドウシャ

♩=104　　日本教育音樂協會編

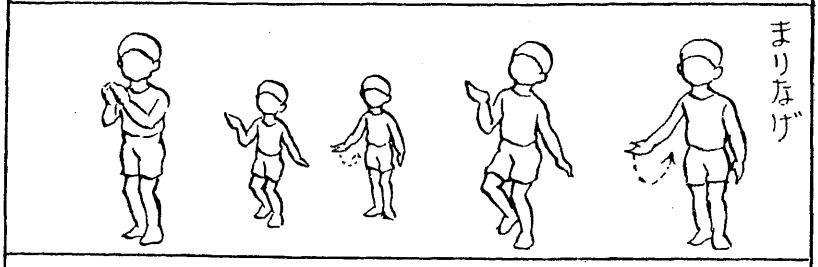


マリナゲ

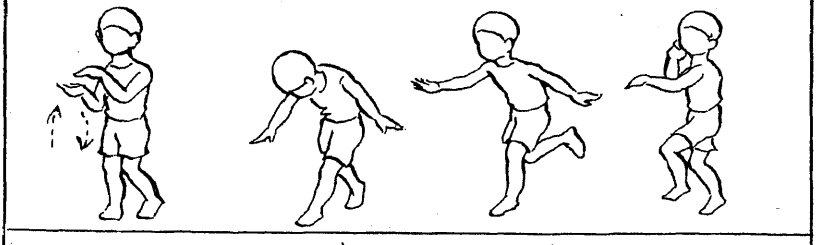
♩=96　　日本教育音樂協會編



うよじ　げな　りま　げな　りま(一)

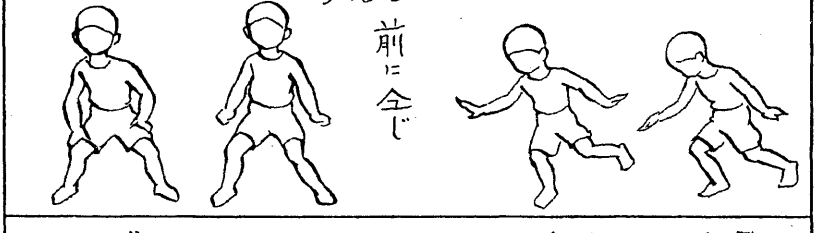


はりま　とるちお　よげな　にず

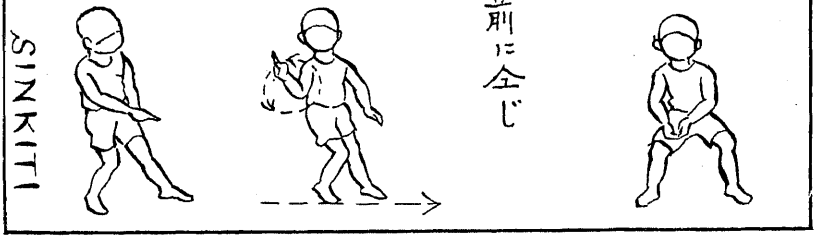


にず　うよじ　げなりま(二)るげに　といたい

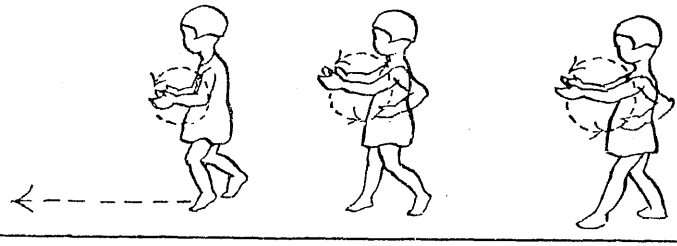
げなりま



るげに　とだやい　はりまとるちお　よけう

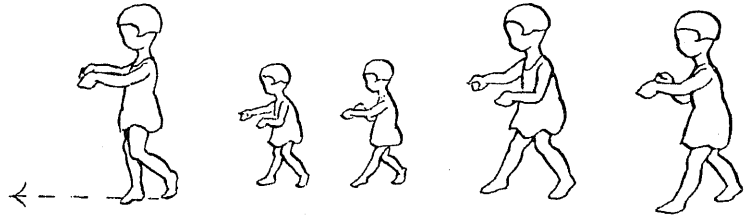


るしは　やしうどじ　　るしは　　るしは

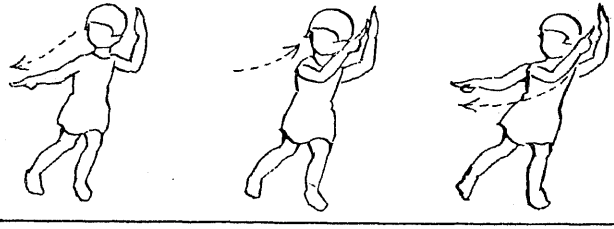


じどうしや

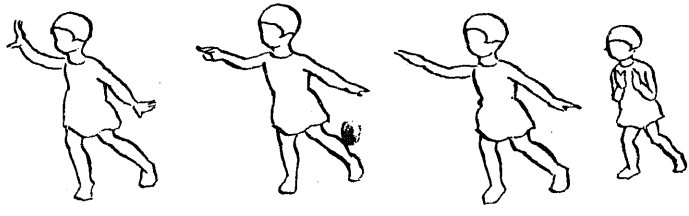
るしは　やしうどじ　てし　らな　　ウブ　　ウブ



にうや　　のまだ　　うぱつて



た　　つやちつい　　う　も



禀告

一、幼稚園及び小學校、家庭、育兒、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歡迎いたします。
一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字下げること、また句讀點は一字あけること。
一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
日本幼稚園協會

注文規定

一、本誌御注文の方は凡て前金（郵稅共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割增）
一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
一、送金の節には第何卷第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

定價

一ヶ月分一册	金參拾五錢	送料壹錢
半ヶ年分六册	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳册	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵稅は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和七年四月十二日印刷納本
昭和七年四月十五日發行
幼兒の教育　第三十二卷　第四號

編輯兼發行者　東京女子高等師範學校附屬幼稚園內　倉橋惣三
印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　柴山則常
印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　合資會社杏林舍
發行所　東京女子高等師範學校附屬幼稚園內　日本幼稚園協會　振替口座東京一七二六六番

不許複製
禁轉載

廣告

特等面一頁	金參拾圓	二等面一頁	金貳拾圓
一等面一頁	金貳拾五圓	一頁以下御斷	

神田區南甲賀町八品田奧松に御申込下さい。

廣島文理科大學教授 文學博士 久保良英著

現代心理學叢書

第二編 精神分析學

新刊

心理學の分野に於ても我等に最も興味深きものは精神分析學である。のみならず之れが應用的方面に於ては殆んど無盡藏と謂ふべく少くとも形而上の諸科學の中に在つては第一位にある。猶殊に最近斯學が教育界に齎らした影響の甚大さは特筆すべきもので性教育の根本的解決などに付ても精神分析法を他にしては殆んど不可能とせられて居る。久保博士は常に我心理學界に最新の智識を取入れ又新しき方途を創造して學界の啓發に餘念なき人、即ち精神分析學に最も新しき色彩を添へ既往先人の研究をより深く掘鑿して其の全般を說き更に應用的方面を懇切指導す、一般心理學徒は勿論學校教育家他總ての文化人の必讀を乞ふ。

菊判四百五十頁 洋綴全一冊 定價八十錢 送料・餘錢

第一編 形態心理學

菊判洋綴一冊 定價三圓五十錢 送料十八錢

形態心理學の出現と共に心理學界は一大センセーションを捲き起して居る。實に我邦に於る最初の形態心理學書。

第三編 人格心理學 近刊

第四編 行動心理學 近刊

第五編 精神科學 派心理學 近刊

第六編 性格學と筆蹟學 近刊

廣島文理科大學教授 文學博士 久保良英先生著

實驗心理學精義

評好

實驗心理學の檢討に餘念なき著者は前篇簡單なる行動篇。後篇複雜なる行動篇を著しその編纂方法は暨的及疊的兩者交互に說叙し未決の問題は之れを未決の問題として貽し、且つその結果相背馳せるものに對しては決して獨斷的私見を取らず、終始一貫純正なる學者的立場より世界の心理學者が開拓せし所、又はせんとする所を周到懇切に詳述せるものなるを以て書中最新學說の充滿せる事は言を俟たず。

◆簡單行動篇 菊判紙數八百頁・挿圖貳百 定價金六圓八十錢 送料金廿七錢

◆複雜行動篇 菊判紙數八百頁・挿圖貳百 定價金六圓 送料金廿七錢

發行所 東京市牛込區東町天一辨 中文館書店 振替東京三八四二番 電話牛込三三二五七

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
昭和七年四月十二日印刷納本
定價三十五錢

幼稚園兒の服裝

家庭も幼稚園も服裝に就いての御心勞が解決、便利で丈夫、而も他品の追隨できぬ廉價。

帽　子 ―― 極めて輕く柔いフエルト製、色は紺、男兒は同色のリボン、女兒は紅色リボンの愛らしいもの、
一個　金　一　圓

ブルーズ（上着） ―― 糸太のポプリン地とセル地の二種色は紺、染色請合、仕立入念に堅牢、男女とも至極お似合ひのもの、
ポプリン地　一着　金一圓三十錢
セル地　一着　金三圓

上はき ―― 御經驗の各位の御意見を參酌して調製した理想的な上履、革製にフエルト底とベルト底とあり、フエルトは足當りよく輕く、歩みて音なく、ベルトは丈夫で耐水性、
ボックス黑革製 兩種とも　一足　金六十五錢
紺コール天製 特製石底　一足　金二十五錢

鎖（ハンカチ名ふだつり） ―― クローム鍍金製の丈夫なもの、
一本　金　十　錢

ランドセル ―― 總革製の頗る堅牢にして大好評のもの、
マーク入大一個　金一圓二十錢

カバン ―― 地厚のフエルト製、紅と茶色の男女兒向の可愛らしいもの、
一個　金五十錢

株式會社　フレーベル館

東京神田・教育會館內　電話九段(33) 3827（御註文用）　振替東京 19640